

ActiveImageTM 3.5

アクティブ イメージ プロテクター PROTECTOR

Server / Desktop Edition
クイックスタートガイド（第1版）

2013年6月14日

ActiveImage Protector 3.5 クイックスタートガイド (Server / Desktop Edition 共通)
(SP3)

Copyright 2013 NetJapan, Inc. 無断複写・転載を禁止します。

本ソフトウェアと付属ドキュメントは株式会社ネットジャパンに所有権および著作権があります。

ActiveImage Protector、ActiveImage Protector Server、ActiveImage Protector Desktop、ActiveImage Protector IT Pro、ActiveImage Protector for Hyper-V with SHR、ActiveImage Protector for Hyper-V Enterprise、ReZoom、ActiveImage Protector Linux、ActiveImage Protector Virtual、ActiveImage Protector Cluster は株式会社ネットジャパンの商標です。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の登録商標です。

※本文中の画面は Server Edition ですが、Desktop Edition でも操作は同じです。

Contents

1. はじめに.....	3
システム要件.....	3
2. インストール.....	4
3. アクティベーション.....	7
4. スケジュール・バックアップの設定と実行.....	9
単体バックアップ.....	9
スケジュールバックアップ.....	16
オフサイトレプリケーションの設定.....	19
5. リストア.....	23
ファイル単位のリストア.....	23
システムリカバリーの実行.....	28
6. APPENDIX.....	40
ActiveImage Protector 参考情報.....	40

1.はじめに

ActiveImage Protector は、レガシーマシンから最新の仮想マシンまで様々な環境の Windows マシンを、先進のディスクイメージング技術により、バックアップ/リカバリーできるツールです。

システムを稼動したままでバックアップするホットイメージング、起動前のクリーンなシステムボリュームをバックアップするコールドイメージング、変更部分だけを高速にバックアップする増分バックアップや、自社の管理ツールと組み合わせて自動化を行えるコマンドライン実行など、バックアップソリューションに必要な機能はすべて装備しています。

システム要件

ActiveImage Protector Server Edition / Desktop Edition のシステム要件は下記のとおりです。

インストール先のマシンが、以下のシステム要件を満たしていることをご確認ください。

メモリ (RAM)	768MB 必須 (1024MB 以上を推奨) Windows 2000 は 512MB 必須
ハードディスク	250MB 以上の空き容量が必要
DVD-ROM ドライブ	製品インストール/復元環境の起動に必要
サポート対象 OS	Server Edition : <ul style="list-style-type: none">• Windows 2000 Server、および Advanced Server Windows 2000 SP4 用の更新プログラム ロールアップ 1 必須• Windows Server 2003 (x86/x64)、および 2003 R2 (x86/x64) Standard、および Enterprise Edition• Windows Server 2008 (x86/x64)、および 2008 R2 Standard、および Enterprise Edition• Windows Server 2012 Standard、および Datacenter Edition• Windows Storage Server 2003、および 2003 R2• Windows Storage Server 2008、および 2008 R2• Windows Storage Server 2012 Desktop Edition : <ul style="list-style-type: none">• Windows 2000 Professional Windows 2000 SP4 用の更新プログラム ロールアップ 1 必須• Windows XP Home Edition、および Professional (x86/x64)• Windows Vista (x86/x64) Starter を除くすべてのエディション• Windows 7 (x86/x64) Starter を除くすべてのエディション• Windows 8 (x86/x64) Windows RT を除くすべてのエディション

なお、制限事項等については、ActiveImage Protector 製品メディアの、以下のパスに存在するリリースノートをご確認ください。

¥DOC¥html¥releasenote.html

2. インストール

バックアップ対象のマシンに、ActiveImage Protector をインストールする方法を説明します。

1. マシンに製品メディアをセットすると、インストールのランチャーが表示されますので、[セットアップ] をクリックします。

ランチャーが表示されない場合は、製品メディアの「¥install¥setup.exe」を直接実行してください。

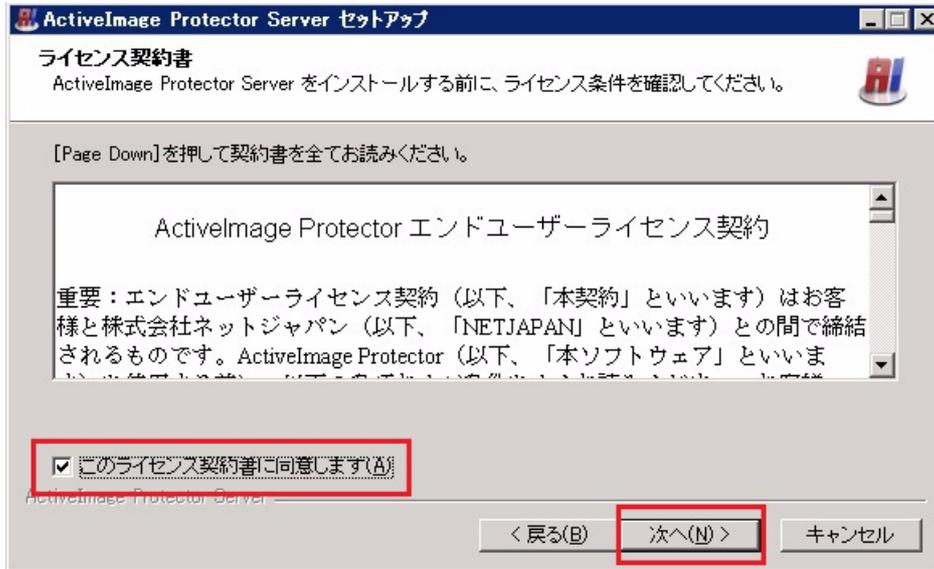


2. [次へ] をクリックします。

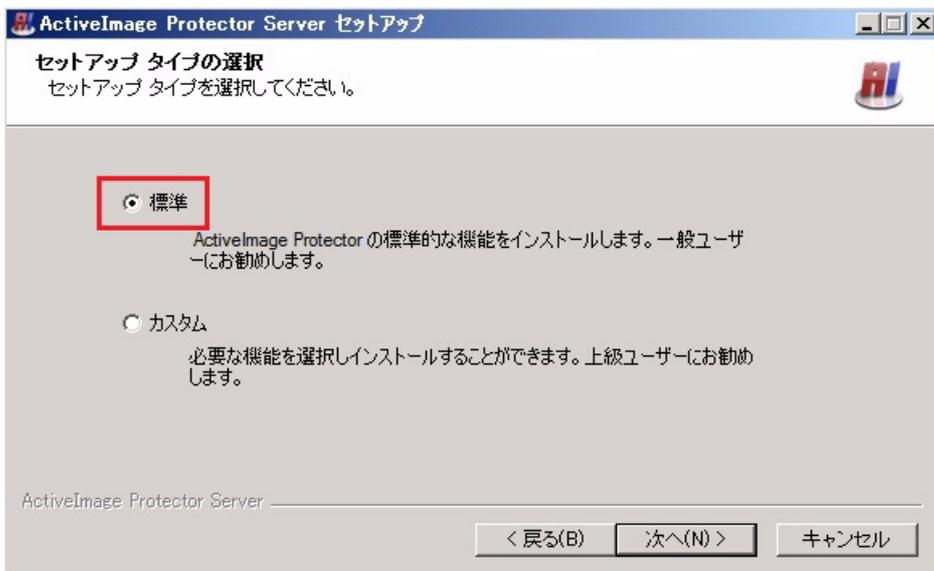


3. ライセンス契約書の内容を確認します。

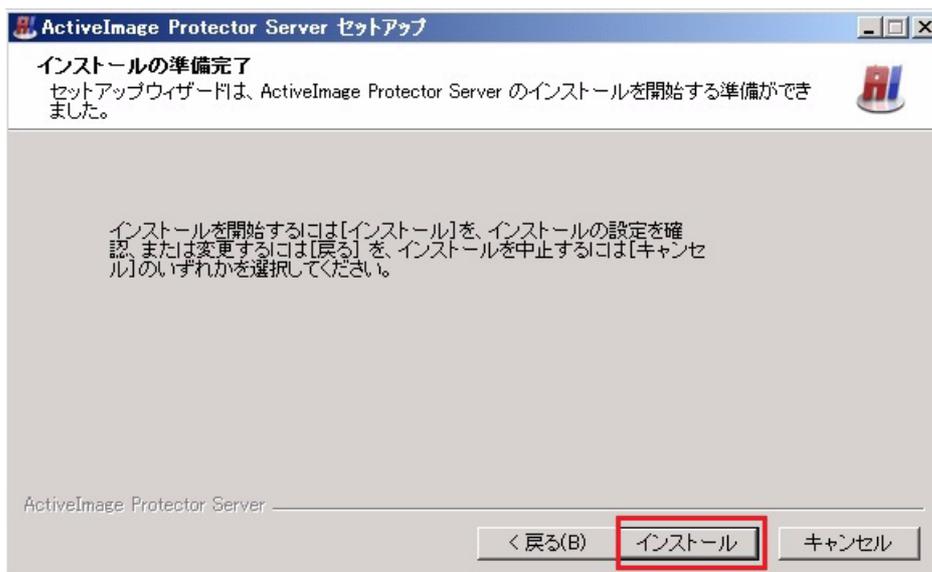
契約書に同意できる場合は、[このライセンス契約書に同意します] のチェックボックスをオンにしてから [次へ] をクリックします。



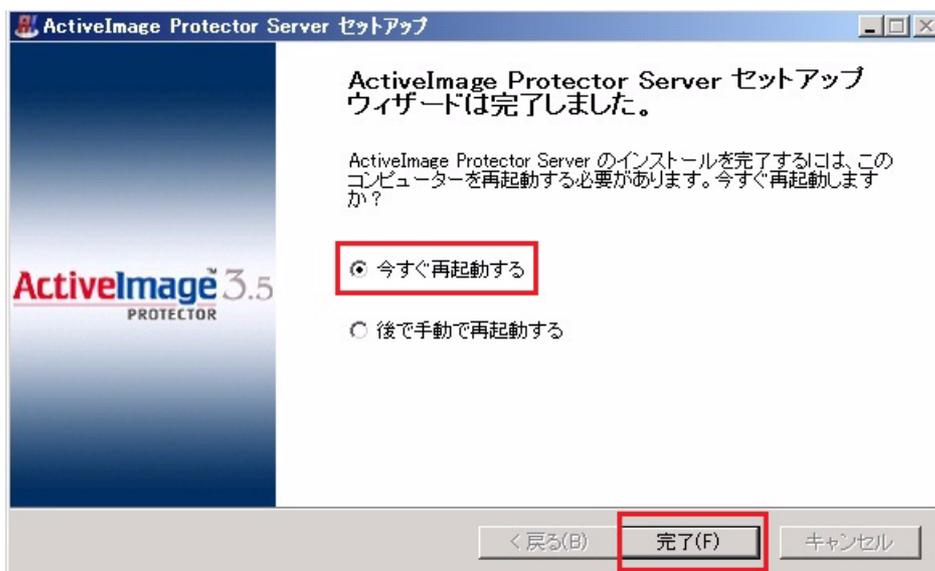
4. セットアップタイプは [標準] を選択して、[次へ] をクリックします。



5. [インストール] をクリックします。



6. インストールを完了したら、[今すぐ再起動する] を選択して、[完了] をクリックします。マシンが自動的に再起動します。



3. アクティベーション

インストールした ActiveImage Protector に対してアクティベーションを実行し、評価期限を解除して使用できる状態にします。

1. ActiveImage Protector を起動します。

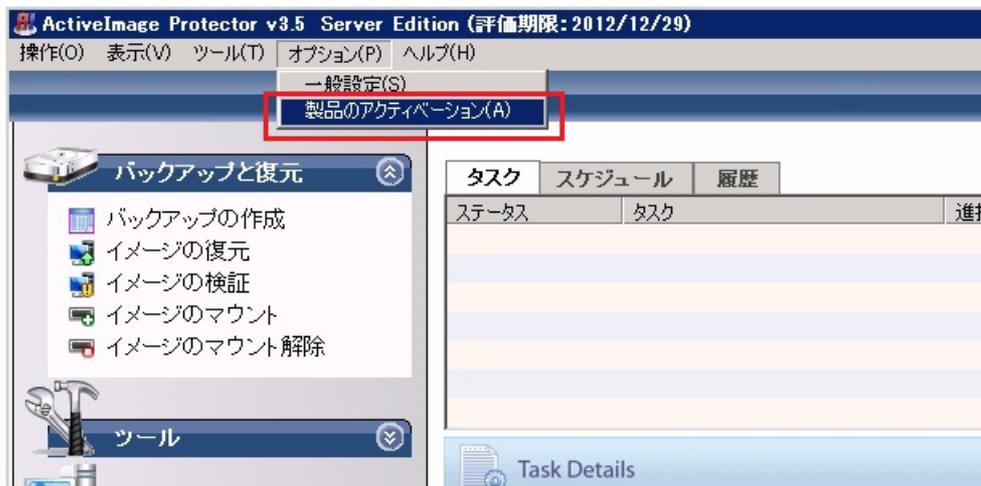
- サーバー OS の場合

[スタート] → [すべてのプログラム] → [ActiveImage Protector Server] → [ActiveImage Protector] をクリックします。

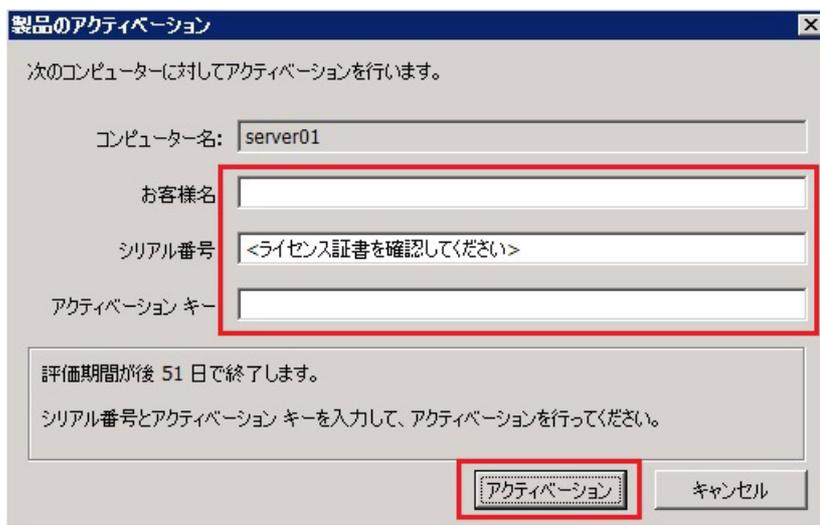
- デスクトップ OS の場合

[スタート] → [すべてのプログラム] → [ActiveImage Protector Desktop] → [ActiveImage Protector] をクリックします。

2. [オプション] メニューから、[製品のアクティベーション] をクリックします。



3. [お客様名:], [シリアル番号:], [アクティベーションキー:] を入力してから [アクティベーション] をクリックします。



4. 下記のメッセージを確認できたら、アクティベーションは完了です。
[OK] をクリックしてください。



4. スケジュール・バックアップの設定と実行

単体バックアップ

今すぐバックアップを実行する、単体バックアップの方法について説明します。

1. ActiveImage Protector を起動します。

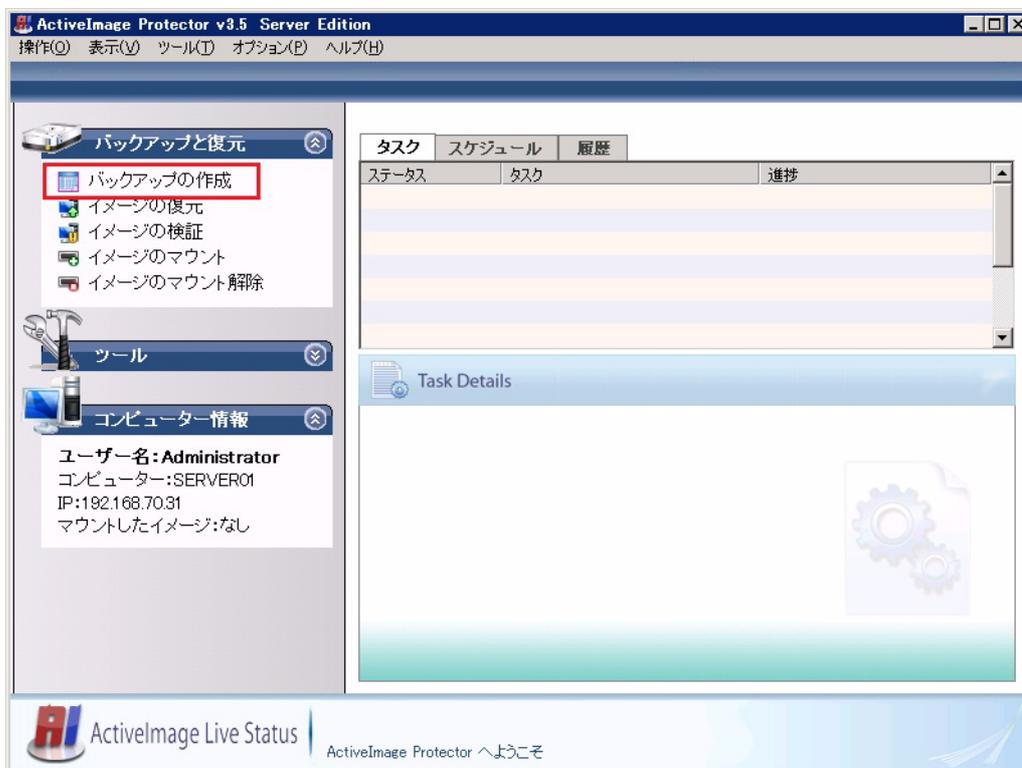
- サーバー OS の場合

[スタート] → [すべてのプログラム] → [ActiveImage Protector Server] → [ActiveImage Protector] をクリックします。

- デスクトップ OS の場合

[スタート] → [すべてのプログラム] → [ActiveImage Protector Desktop] → [ActiveImage Protector] をクリックします。

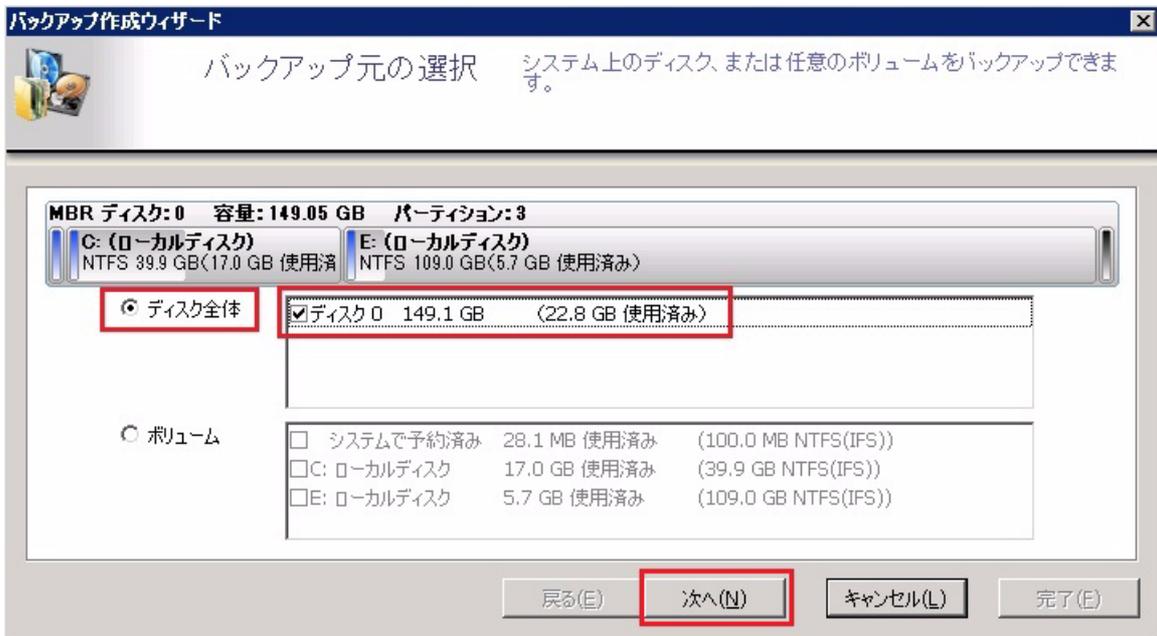
2. [バックアップの作成] をクリックします。



3. バックアップ元を選択します。

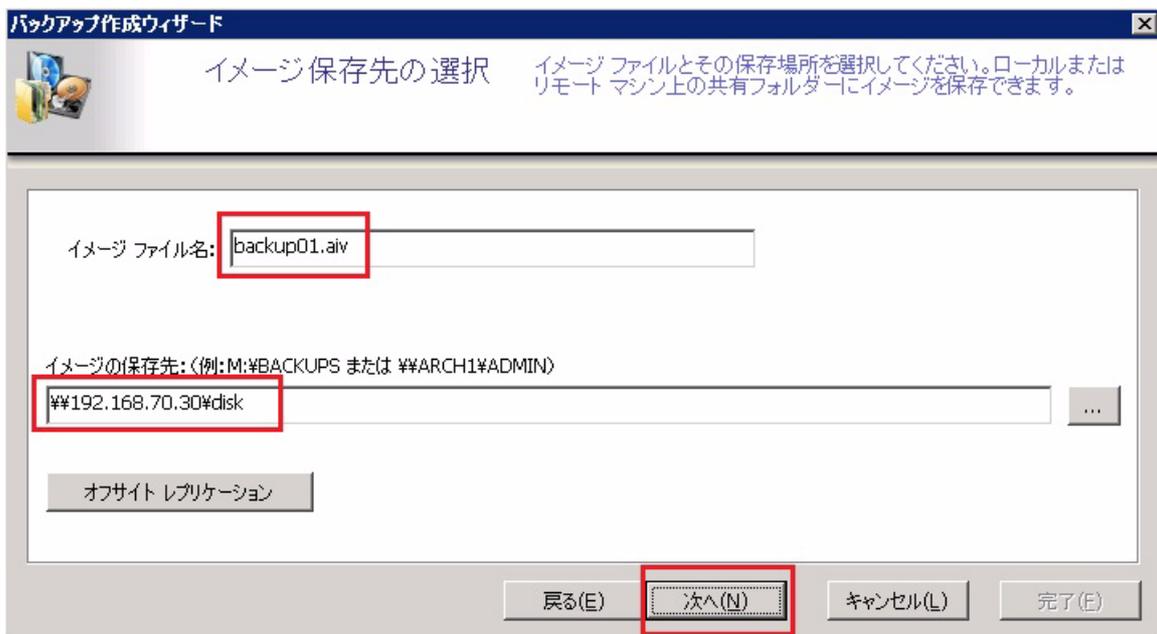
ここでは例として、バックアップ元としてディスク全体を選択します。

[ディスク全体] を選択してから、[ディスク 0] のチェックボックスをオンにします。バックアップ元の選択が完了したら、[次へ] をクリックします。

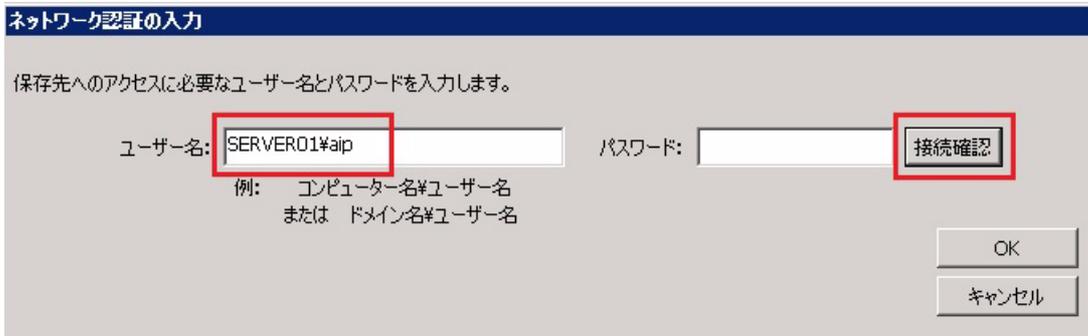


4. イメージファイルの名前と保存先を指定します。

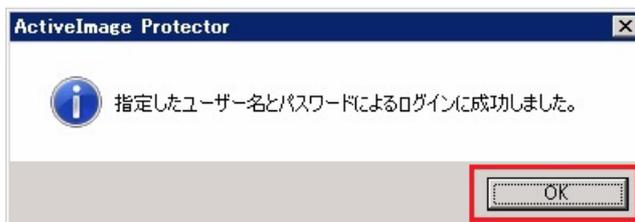
ここでは例として、イメージファイル名は「backup01.aiv」、保存先は「¥¥192.168.70.30¥disk」とします。[イメージファイル名:] と [イメージの保存先:] を入力してから、[次へ] をクリックします。



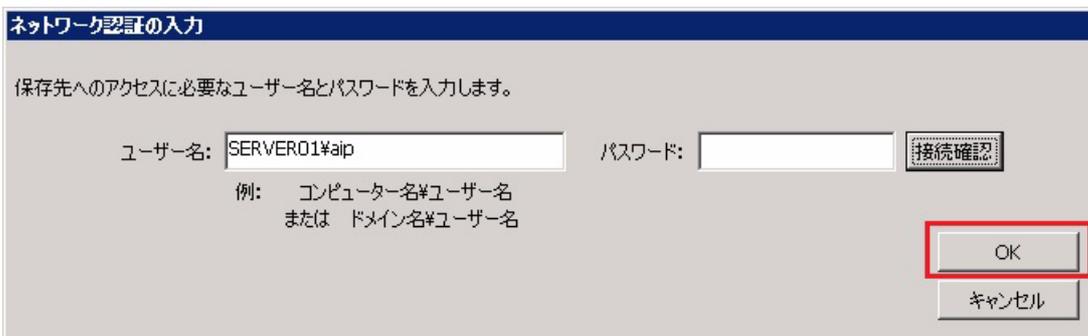
5. 保存先に対する認証情報を入力します。
ユーザー名は「コンピューター名¥ユーザー名」の形式で入力してください。
ここでは例として、コンピューター名を「SERVER01」、ユーザー名を「aip」とします。
[ユーザー名:] に「SERVER01¥aip」、[パスワード:] に設定されているパスワードを入力してから、
[接続確認] をクリックしてください。



6. 保存先への接続に問題がなければ、下記のメッセージが表示されます。
[OK] をクリックしてください。

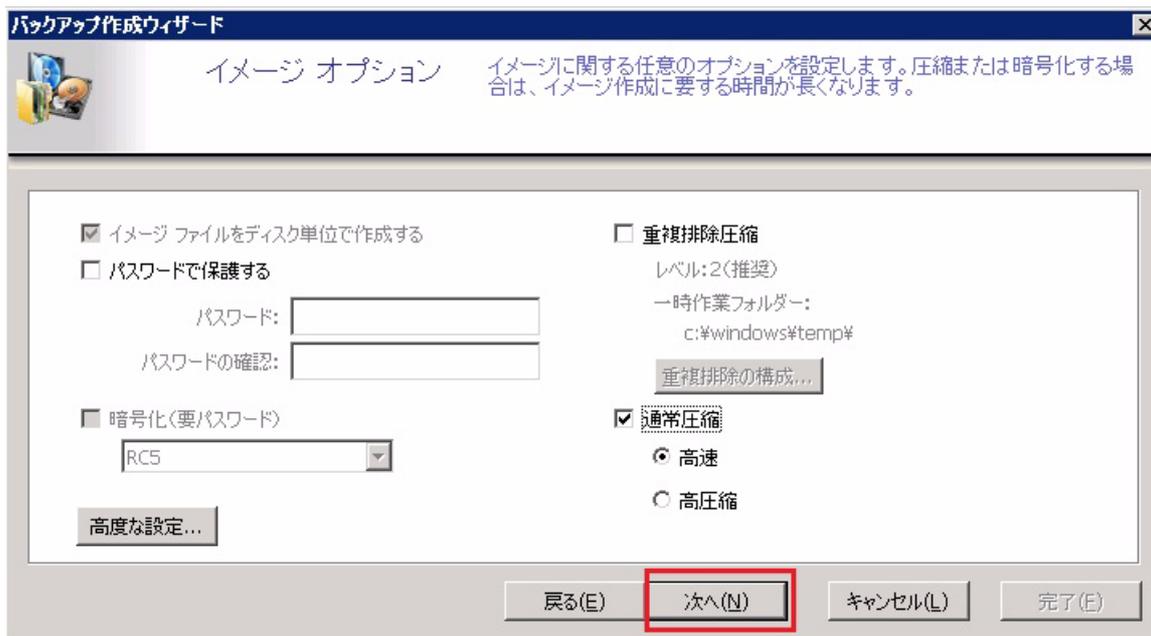


ネットワーク認証の入力に戻りますので、[OK] をクリックしてください。



7. 「イメージオプション」を設定します。

通常のバックアップはオプションを変更する必要はありません。このまま [次へ] をクリックします。



「イメージオプション」の設定内容は次のとおりです。必要に応じて選択してください。

オプション	内容
イメージファイルをディスク単位で作成する	バックアップ対象として複数ディスクを選択している場合のみ設定可能です。このオプションを無効にすると、すべてのディスクを一つのイメージファイルにバックアップします。重複排除圧縮を有効にする場合は、このオプションを無効にすることをお勧めします。
パスワードで保護する	イメージファイルにパスワードを設定できます。暗号化する際にも設定が必要です。1文字から設定可能です。英数字を組み合わせることでイメージファイルに対するセキュリティをより高めることが可能です。
暗号化(要パスワード)	バックアップイメージを暗号化できます。暗号化アルゴリズムは以下の中から選択します。 [RC5] – RC5 256bit を使用して暗号化を行います。 [AES (128bit)] – AES 128bit を使用して暗号化を行います。 [AES (256bit)] – AES 256bit を使用して暗号化を行います。
通常圧縮	バックアップイメージを標準の形式で圧縮します。圧縮率は以下の中から選択できます。 [高速] – バックアップに要する時間とディスク使用量のバランスがとれています。 [高圧縮] – システムリソースを最大限活用し圧縮を行います。ファイルは最も小さくなりますが、実行速度は遅くなります。
重複排除圧縮	重複排除による圧縮を行います。重複排除機能の設定を変更する場合は [重複排除の構成 ...] をクリックしてください。

[高度な設定...] をクリックすると、下記の画面が表示されます。
 通常は初期値のままで構いませんが、必要に応じて設定してください。

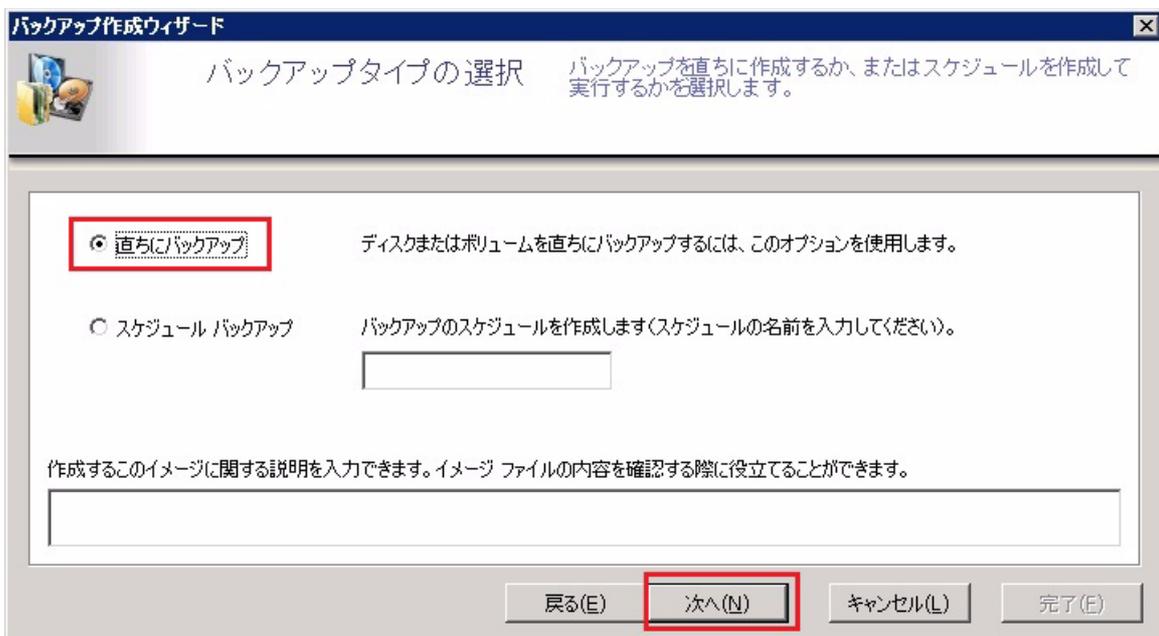
「イメージ作成での高度なオプション」の設定内容は次のとおりです。

オプション	内容
スナップショット実行前に実行するスクリプト：	スナップショットを作成する前に実行するスクリプトファイルを指定できます。 〈例〉 VSS 非対応のアプリケーションまたはデータベースを停止し、バックアップが可能な状態に設定する操作が行えます。
スナップショット実行後に実行するスクリプト：	スナップショットを保存した後に実行するスクリプトファイルを指定できます。 〈例〉 スナップショット実行前のスクリプトを使用して休止状態にしていたアプリケーション、またはデータベースを再び稼働状態にするためのスクリプトが実行できます。
イメージ作成後に実行するスクリプト：	バックアップイメージの作成後に実行するスクリプトファイルを指定できます。 〈例〉 作成されたバックアップイメージを、オフサイトにコピーする操作などが行えます。
タスクの実行エラー時でも、指定したスクリプトを全て実行する	バックアップが何らかの問題によりエラーが発生した場合にも、指定したすべてのスクリプトが実行されます。

オプション	内容
イメージに未使用のセクターを含める	空き領域を含む、ボリュームの全セクターをバックアップします。
イメージを「」MB毎に分割する	任意のサイズ（MB 単位）で分割したイメージファイルを作成します。
不良セクターを無視する	バックアップ元のディスク上の不良セクターの存在をエラーとせず、バックアップタスクを継続します。
アクセス不能のボリュームを無視する	アクセス不能なボリュームがあってもエラーとせず、バックアップを継続します。
作成時にイメージを検証する	イメージファイル作成中にイメージファイルの検証を行います。通常のイメージファイル作成に検証が追加されるため、タスクの完了に時間がかかります。
ネットワークスロットルを使用する	ネットワーク共有フォルダーにイメージファイルを保存する時に利用するネットワーク帯域を、キロバイト単位で制限します。
ネットワークへの書き込み時にキャッシュを使用する	イメージファイルの保存先がネットワーク上である場合、キャッシュを使用して書き込み速度を向上させます。
MD5 ファイルを作成する	作成したイメージファイルの MD5 をファイルに出力します。

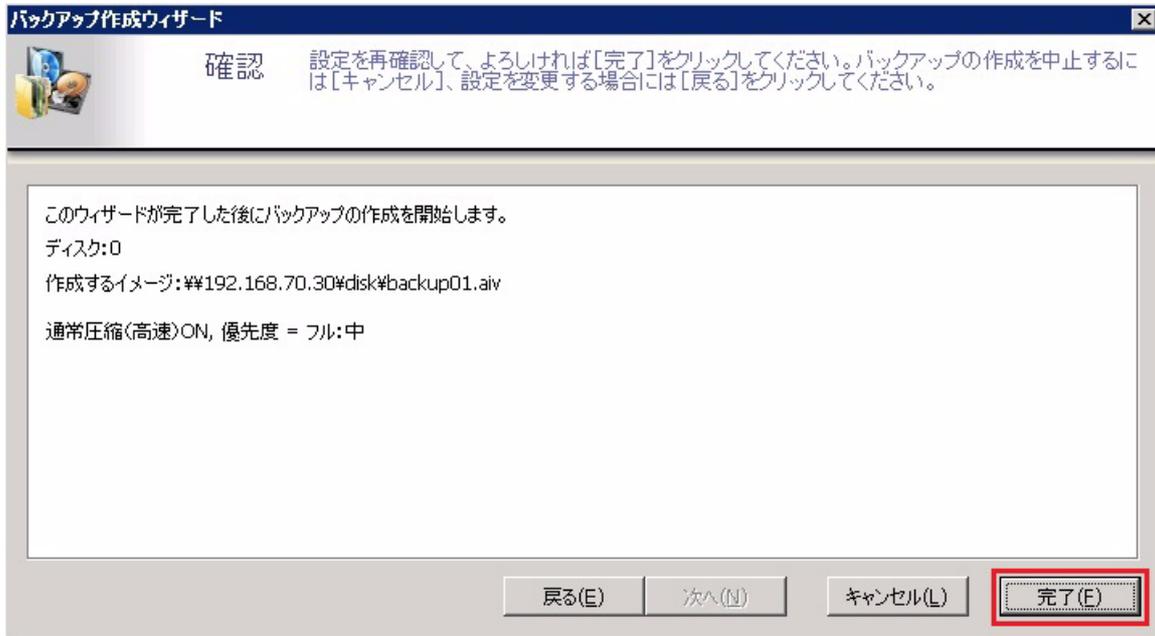
8. バックアップタイプを選択します。

[直ちにバックアップ] が選択されていることを確認してから、[次へ] をクリックします。
 (スケジュールバックアップの手順は、16 ページの「スケジュールバックアップ」を参照してください。)

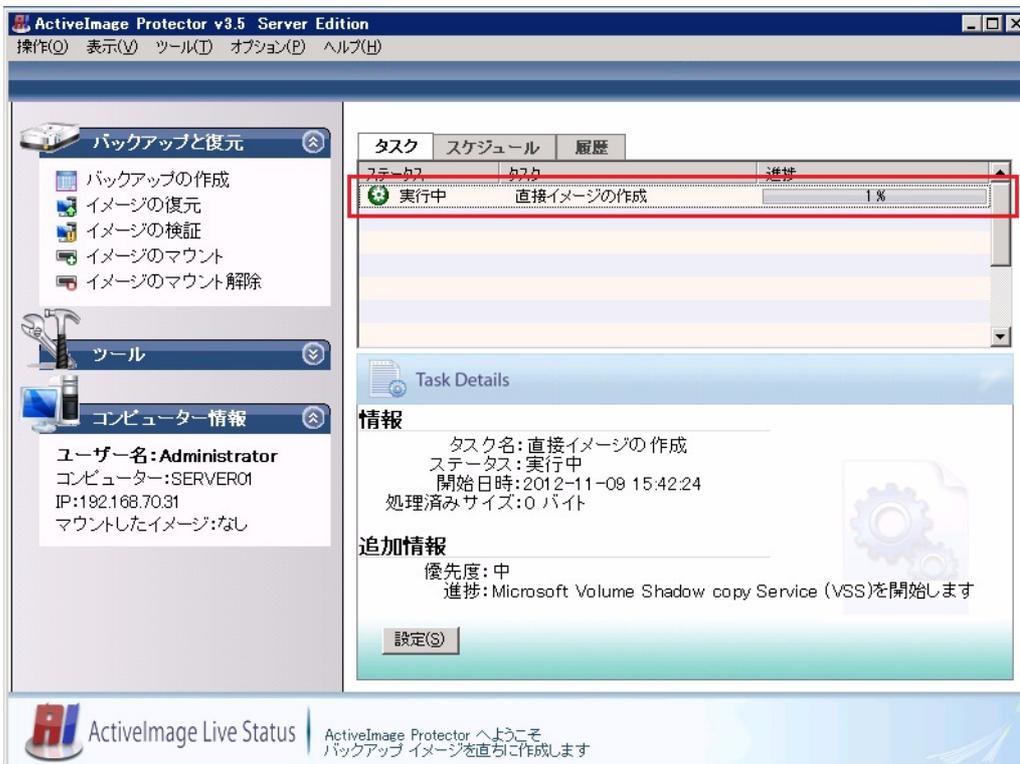


9. バックアップの内容が表示されます。

内容を確認してから [完了] をクリックすると、バックアップが開始されます。



10. バックアップが開始されると、バックアップタスクが表示されます。
進捗が100%になるとバックアップは完了します。



スケジュールバックアップ

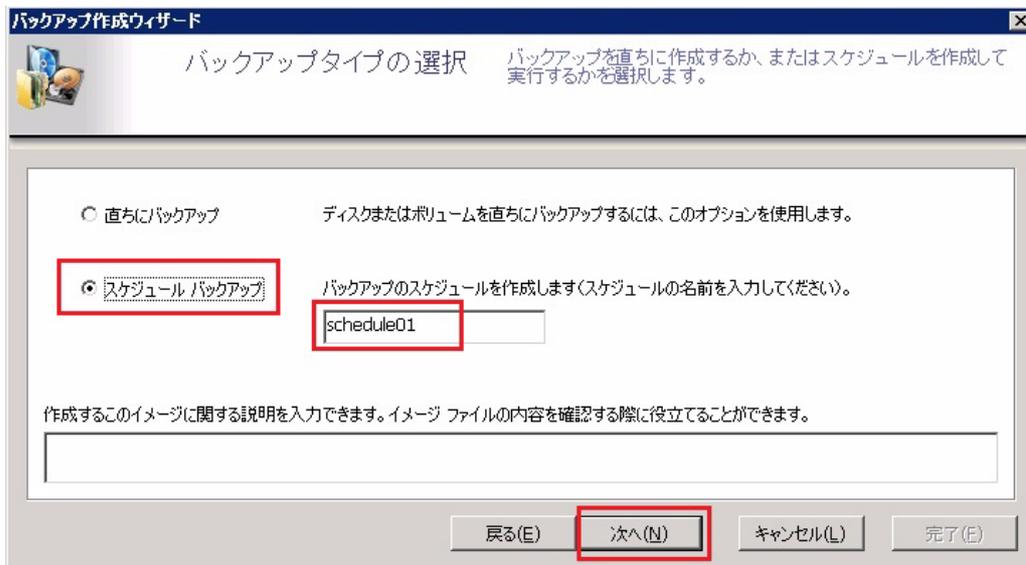
定期的にバックアップを実行する、スケジュールバックアップの方法について説明します。

まず、「単体バックアップ」の1.から7. (9ページから12ページ) までと同様の手順で操作を進めます。

8. バックアップタイプを選択します。

[スケジュールバックアップ] を選択します。

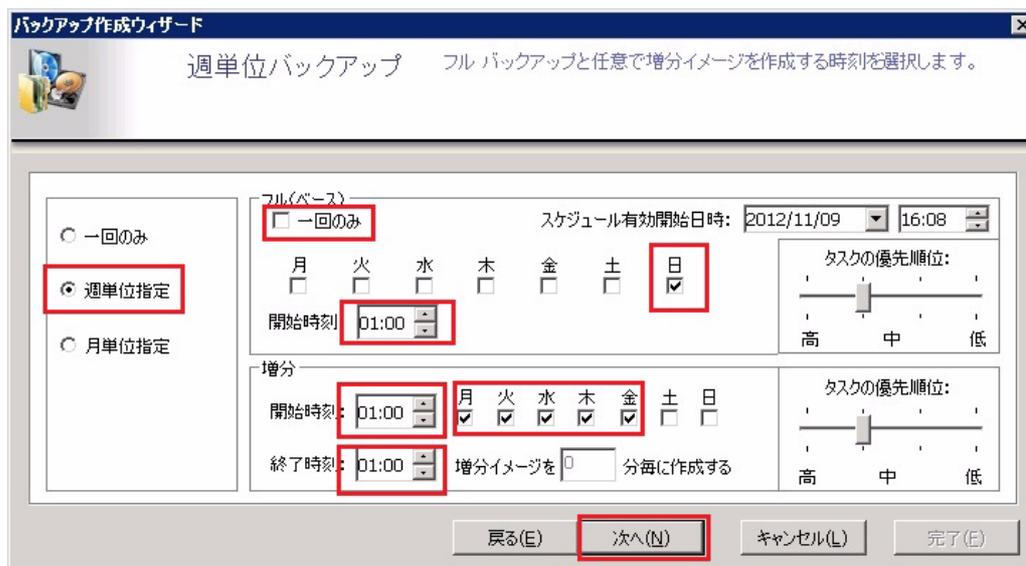
[バックアップのスケジュールを作成します(スケジュールの名前を入力してください)。] にスケジュール名を入力して、[次へ] をクリックしてください。



9. バックアップ実行のタイミングを設定します。

ここでは例として、下記の設定で週単位のバックアップスケジュールを作成します。

- スケジュールの種類：週単位指定
- フルバックアップ：日曜日の午前1時
- 増分バックアップ：月曜日から金曜日までの午前1時



すべての項目を設定したら、[次へ] をクリックします。

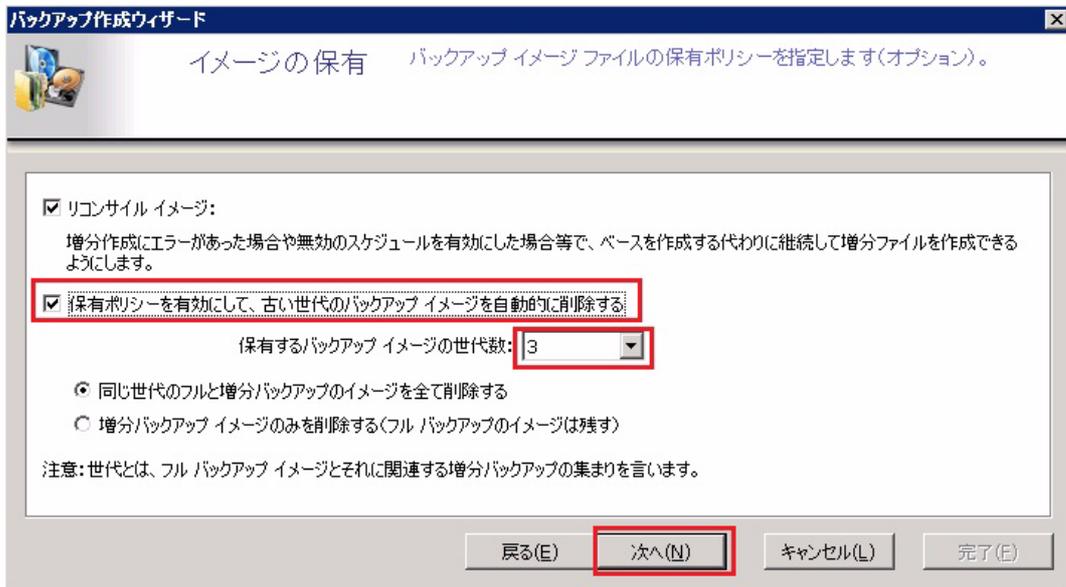
10.「イメージの保有」を設定します。

[保有ポリシーを有効にして、古い世代のバックアップイメージを自動的に削除する] のチェックボックスをオンにして、保有するバックアップイメージの世代数を設定します。

ここでは初期値の3を指定します。

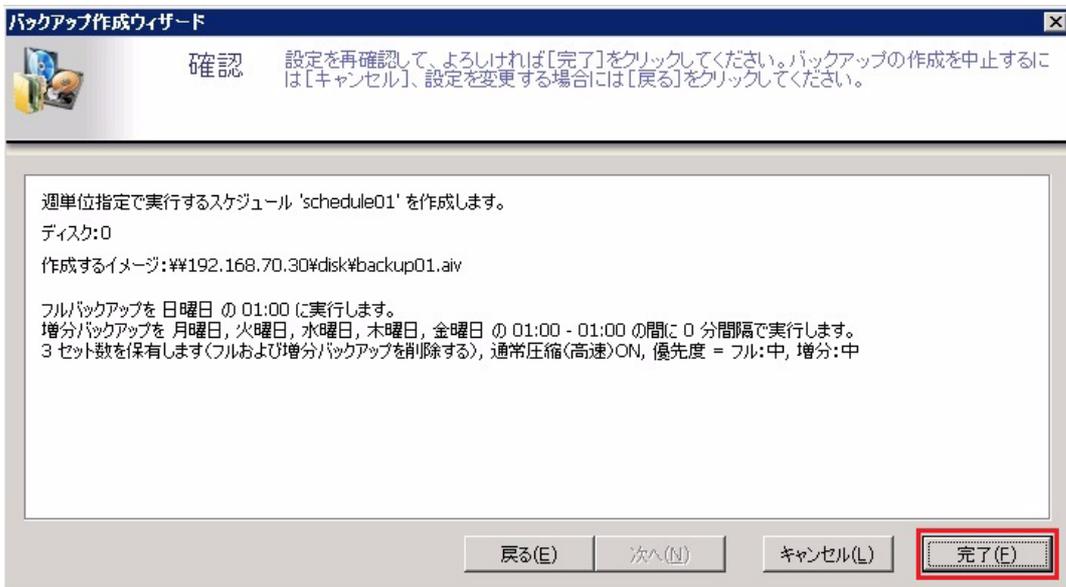
(週単位指定のスケジュールの場合は、3週間分のイメージが保存先に残ります。)

イメージの保有を設定したら、[次へ] をクリックします。

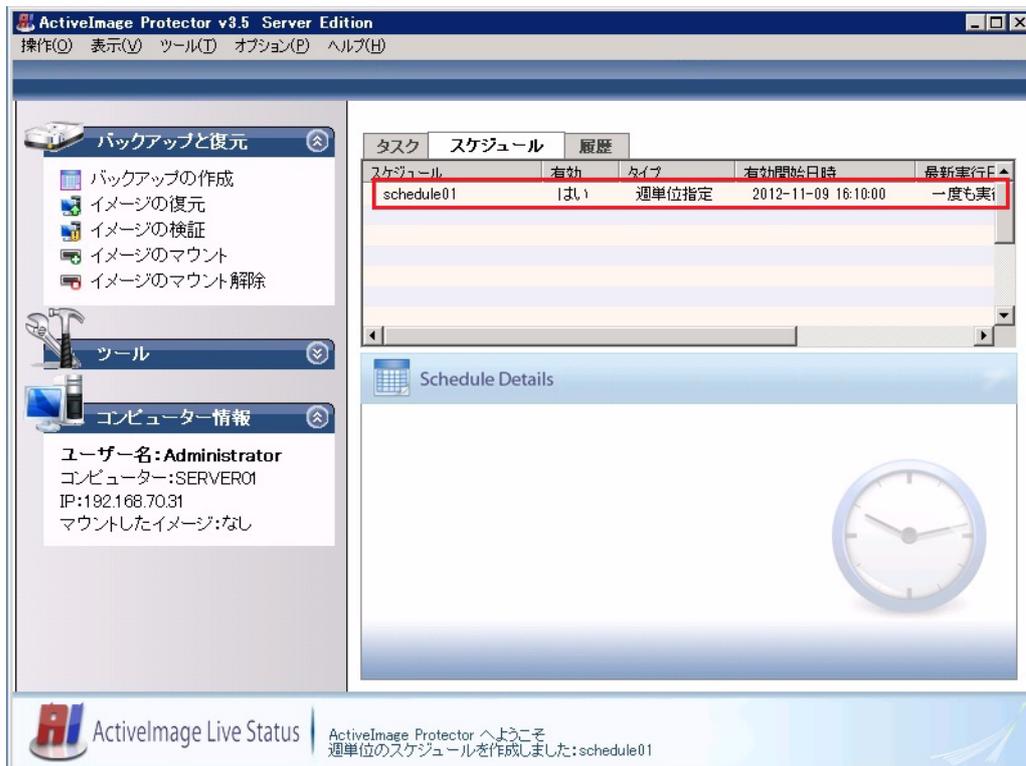


11. スケジュールの内容が表示されます。

内容を確認してから [完了] をクリックすると、スケジュールが作成されます。



- 12.「スケジュール」タブに、作成したスケジュールが登録されているかを確認します。
指定した時刻になると、スケジュールバックアップが実行されます。

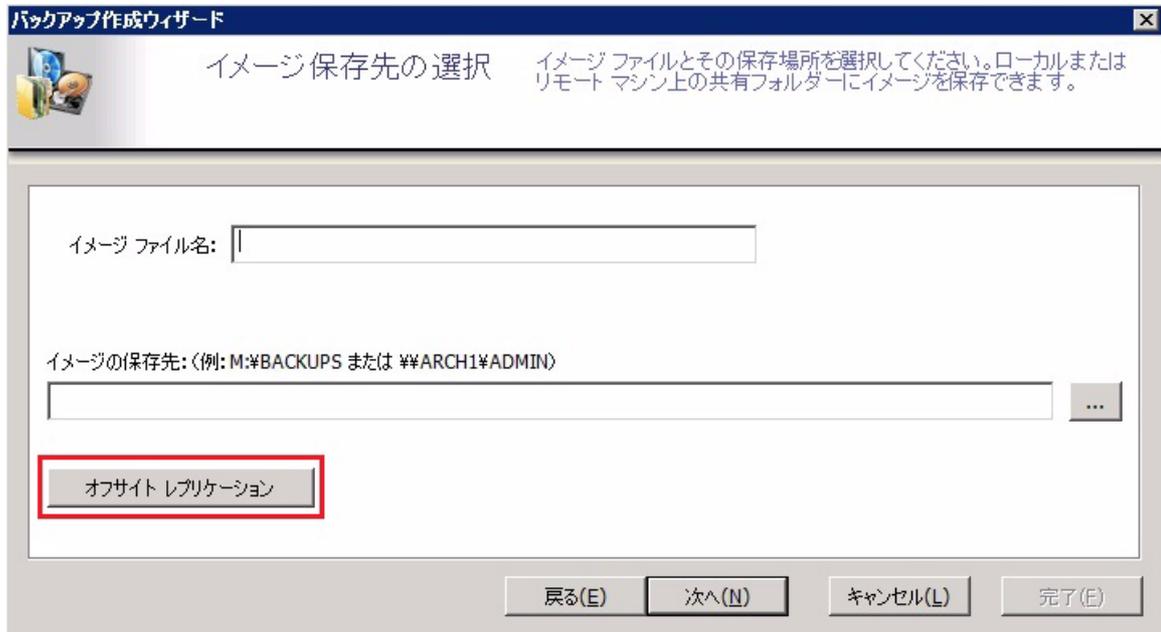


オフサイトレプリケーションの設定

オフサイトレプリケーション機能を利用すると、バックアップタスクの終了後、任意の場所へバックアップイメージファイルの複製を作成することができます。

1. オフサイトレプリケーションの設定を開きます。オフサイトレプリケーションは、「バックアップ作成ウィザード」の下記の段階で機能を有効にすることができます。

[オフサイトレプリケーション] をクリックします。



2. レプリケーション先1の [このレプリケーション先を有効にする] にチェックを入れます。

テキストボックスにレプリケーション先のパスを直接入力するか、[...] (参照) から選択して指定してください。

ここでは例として、レプリケーション先のサーバーを「rep-server01」、レプリケーション先の共有フォルダー名を「backup」、ユーザー名を「administrator」として、次の設定を入力します。

(ユーザー名は「コンピューター名¥ユーザー名」の形式で入力してください。)

- レプリケーション先：¥¥rep-server01¥backup
- ユーザー名：SERVER01¥administrator
- パスワード：(ユーザーに設定されているパスワード)

オフサイトレプリケーションの設定

オフサイトレプリケーションを有効にする

レプリケーション先 1

このレプリケーション先を有効にする

レプリケーション先: (例: M:¥BACKUPS, ¥ARCH1¥ADMIN, ftp://hostname/folder または http://hostname/folder)

¥¥rep-server01¥backup

ユーザー名: SERVER01¥administrator パスワード: ●●●●●●●●

保存ポリシーにより保存先のイメージファイルが削除された場合、同じイメージファイルを削除する

新しいイメージファイルのみレプリケーションする 常にレプリケーション元と同じ状態にする

増分イメージファイルのみレプリケーションする

レプリケーション先 2

このレプリケーション先を有効にする

レプリケーション先: (例: M:¥BACKUPS, ¥ARCH1¥ADMIN, ftp://hostname/folder または http://hostname/folder)

ユーザー名: パスワード:

保存ポリシーにより保存先のイメージファイルが削除された場合、同じイメージファイルを削除する

新しいイメージファイルのみレプリケーションする 常にレプリケーション元と同じ状態にする

増分イメージファイルのみレプリケーションする

レプリケーション先 3

このレプリケーション先を有効にする

レプリケーション先: (例: M:¥BACKUPS, ¥ARCH1¥ADMIN, ftp://hostname/folder または http://hostname/folder)

ユーザー名: パスワード:

保存ポリシーにより保存先のイメージファイルが削除された場合、同じイメージファイルを削除する

新しいイメージファイルのみレプリケーションする 常にレプリケーション元と同じ状態にする

増分イメージファイルのみレプリケーションする

各情報を入力した後に [接続確認] をクリックします。

3. レプリケーション先に対するユーザー名とパスワードに間違いがなければ、次のメッセージが表示されますので、[OK] をクリックしてください。



必要に応じて以下のオプションを選択してください。

オプション	内容
保有ポリシーにより保存先のイメージファイルが削除された場合、同じイメージファイルを削除する	スケジュールバックアップの保有ポリシーによって削除されたイメージファイルを、レプリケーション先でも削除します。 ※結合処理やユーザー操作によって削除されたファイルは、削除されません
新しいイメージファイルのみレプリケーションする	新たに作成されたイメージファイルのみ、複製をレプリケーション先に作成します。 レプリケーション機能が無効状態の既存のバックアップスケジュールで、レプリケーション機能を有効にするよう編集してこのオプションを選択した場合は、これまで作成されたイメージファイルはレプリケーション先に複製されず、編集後に作成したイメージファイルのみ複製が作成されます。
常にレプリケーション元と同じ状態にする	指定したイメージの保存先フォルダーとレプリケーション先は常に同期されます。 結合処理やユーザー操作によって編集・削除されたファイルも保存先フォルダーの状態と同期されます。
増分イメージファイルのみレプリケーションする	プロファイルによって作成された増分イメージファイルのみ複製をレプリケーション先に作成します。 ※結合処理によって生成された増分イメージファイルの複製は、レプリケーション先に作成されません。

注意： [新しいイメージファイルのみレプリケーションする] と [常にレプリケーション元と同じ状態にする] は、どちらか一つのみを有効にできます。デフォルト設定では、この二つのオプションは無効となっています。その場合、レプリケーション先には、指定したイメージ保存先フォルダーに存在する ActiveImage Protector に関するファイルの複製が作成されますが、結合処理やユーザー操作によって編集、削除されたファイルの同期は行われません。

4. 設定が終了したら [OK] をクリックしてください。バックアップタスクが完了した後、レプリケーション処理がバックグラウンドで実行されます。

オフサイトレプリケーションの設定

オフサイトレプリケーションを有効にする

レプリケーション先 1

このレプリケーション先を有効にする

レプリケーション先: (例: M:*BACKUPS, *ARCH1*ADMIN, ftp://hostname/folder または http://hostname/folder)

¥*rep-server01¥backup

ユーザー名: SERVER01¥administrator パスワード: ●●●●●●●● 接続確認

保存ポリシーにより保存先のイメージファイルが削除された場合、同じイメージファイルを削除する

新しいイメージファイルのみレプリケーションする 常にレプリケーション元と同じ状態にする

増分イメージファイルのみレプリケーションする

レプリケーション先 2

このレプリケーション先を有効にする

レプリケーション先: (例: M:*BACKUPS, *ARCH1*ADMIN, ftp://hostname/folder または http://hostname/folder)

ユーザー名: パスワード: 接続確認

保存ポリシーにより保存先のイメージファイルが削除された場合、同じイメージファイルを削除する

新しいイメージファイルのみレプリケーションする 常にレプリケーション元と同じ状態にする

増分イメージファイルのみレプリケーションする

レプリケーション先 3

このレプリケーション先を有効にする

レプリケーション先: (例: M:*BACKUPS, *ARCH1*ADMIN, ftp://hostname/folder または http://hostname/folder)

ユーザー名: パスワード: 接続確認

保存ポリシーにより保存先のイメージファイルが削除された場合、同じイメージファイルを削除する

新しいイメージファイルのみレプリケーションする 常にレプリケーション元と同じ状態にする

増分イメージファイルのみレプリケーションする

OK キャンセル

5. リストア

ファイル単位のリストア

ActiveImage Protector のイメージのマウント機能を使用して、ファイル単位のリストアを実行します。

ファイルまたはフォルダー単位でリストアを実行したい場合は、以下の手順を行ってください。

1. ActiveImage Protector を起動します。

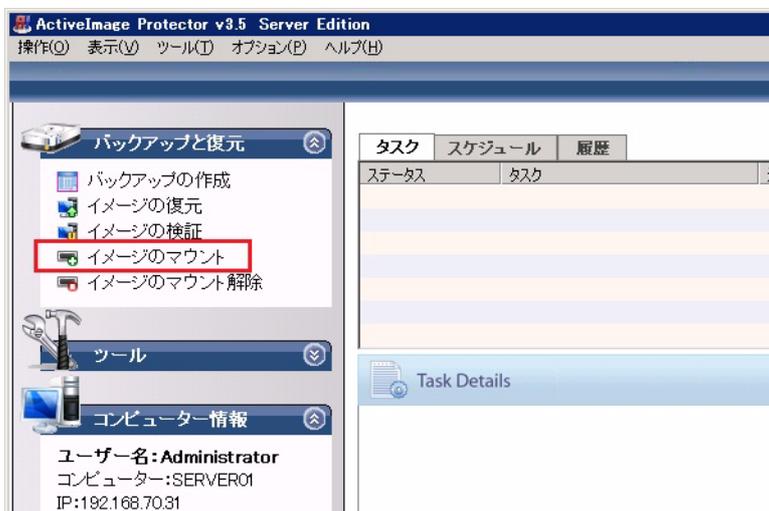
- サーバー OS の場合

[スタート] → [すべてのプログラム] → [ActiveImage Protector Server] → [ActiveImage Protector] をクリックします。

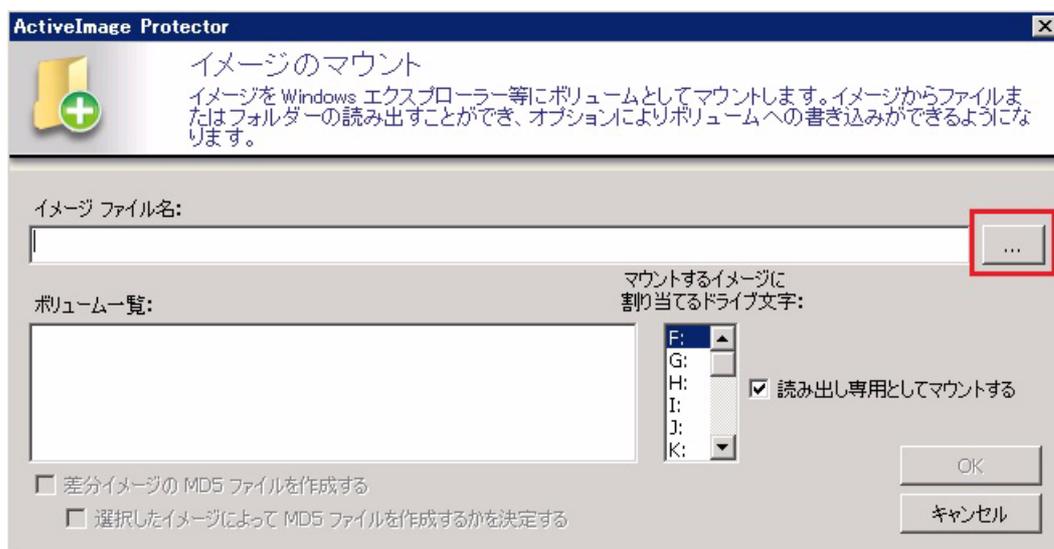
- デスクトップ OS の場合

[スタート] → [すべてのプログラム] → [ActiveImage Protector Desktop] → [ActiveImage Protector] をクリックします。

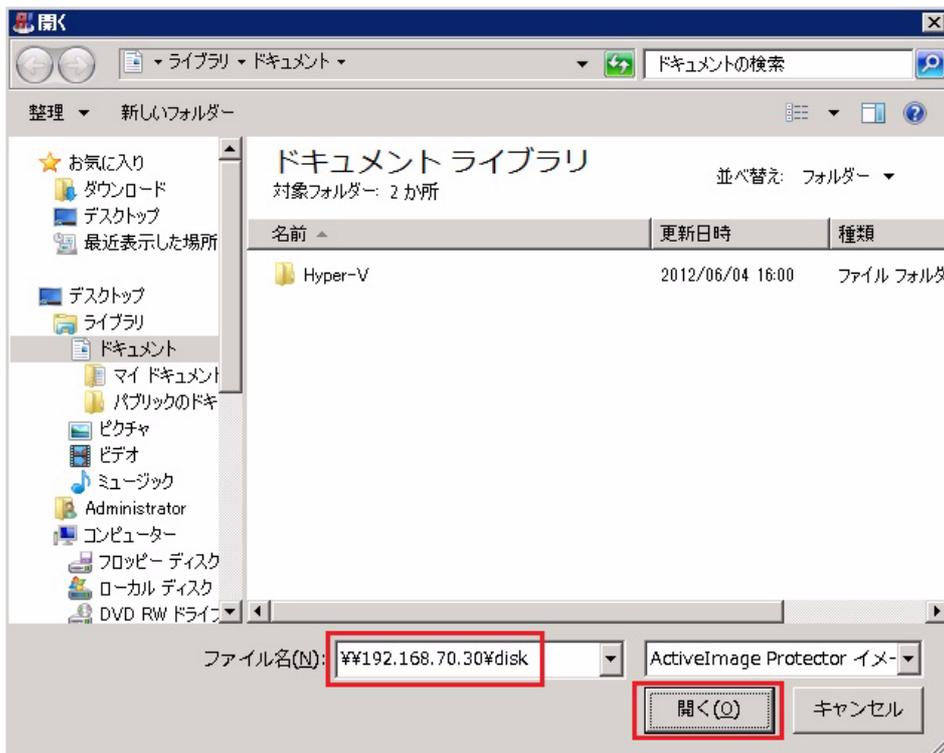
2. [イメージのマウント] をクリックします。



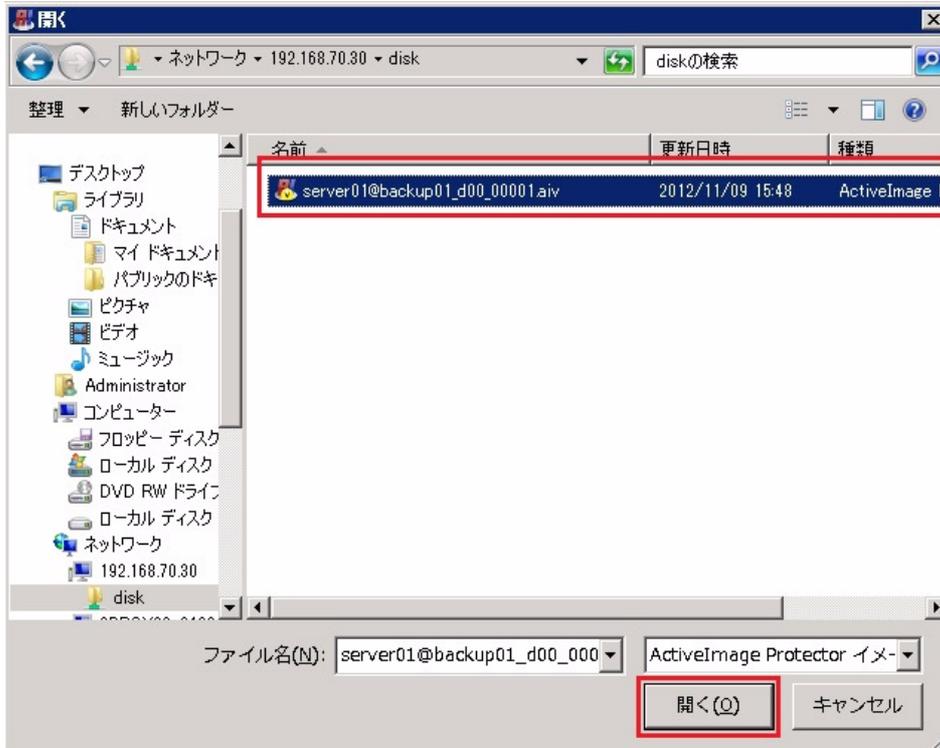
3. [... (参照)] をクリックします。



4. [ファイル名:] にイメージ保存先のパス [¥¥192.168.70.30¥disk] を入力してから、[開く] をクリックします。

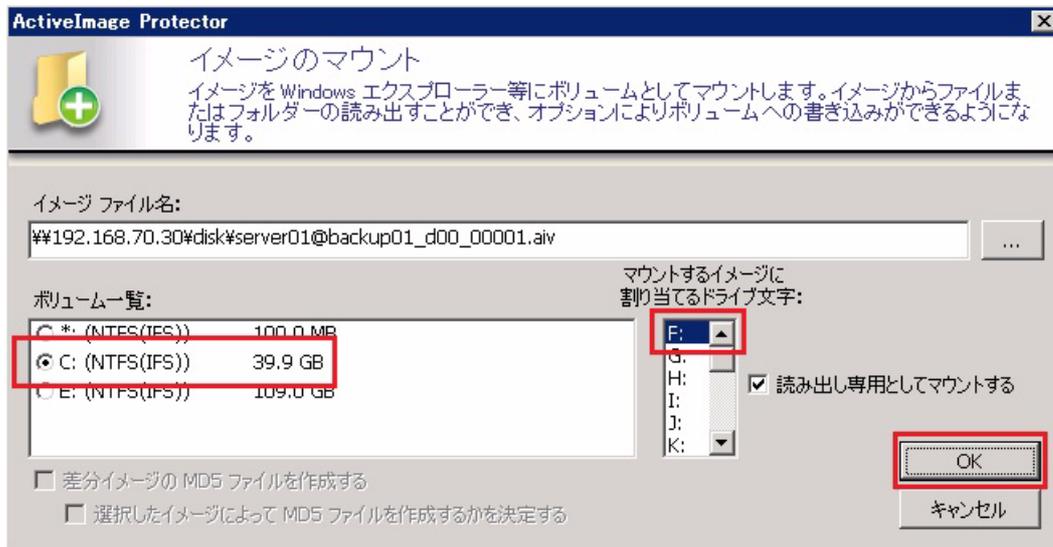


5. 復元したいファイルがバックアップされているイメージファイルを選択してから、[開く] をクリックします。



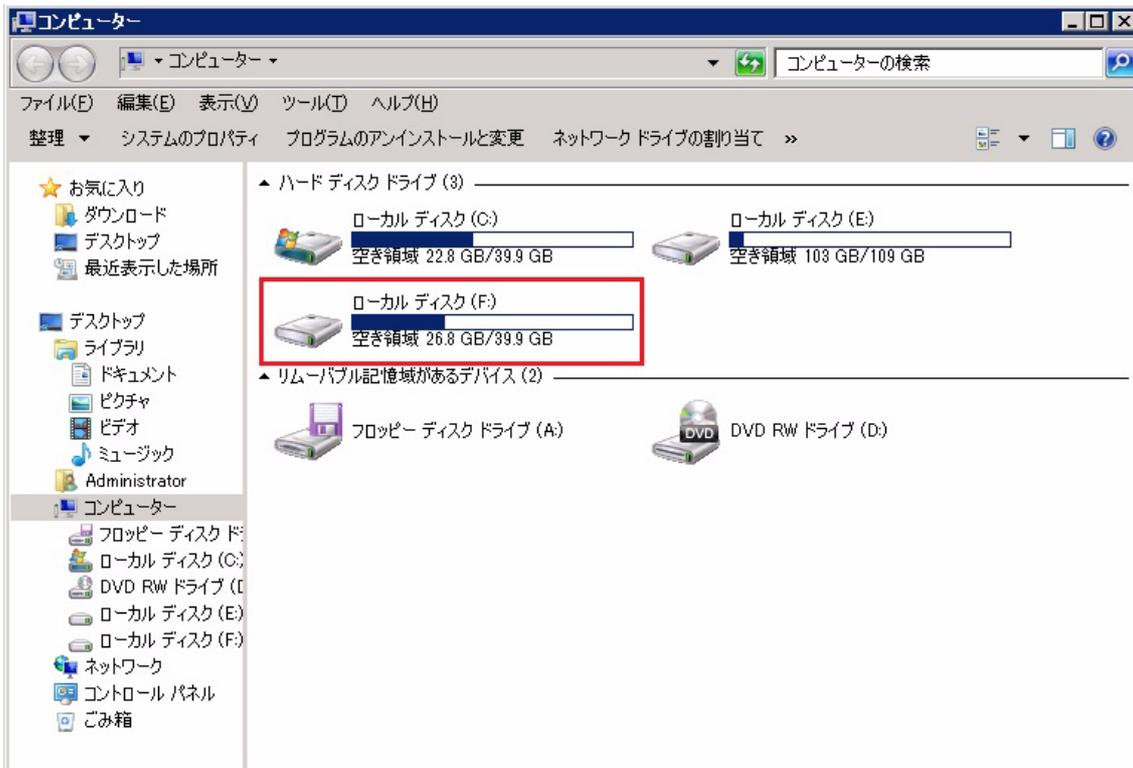
6. [ボリューム一覧:] からマウント対象のパーティションを選択し、[マウントするイメージに割り当てるドライブ文字:] でドライブレターを指定してから、[OK] をクリックします。

ここでは例として、CドライブのイメージをFドライブに割り当てています。

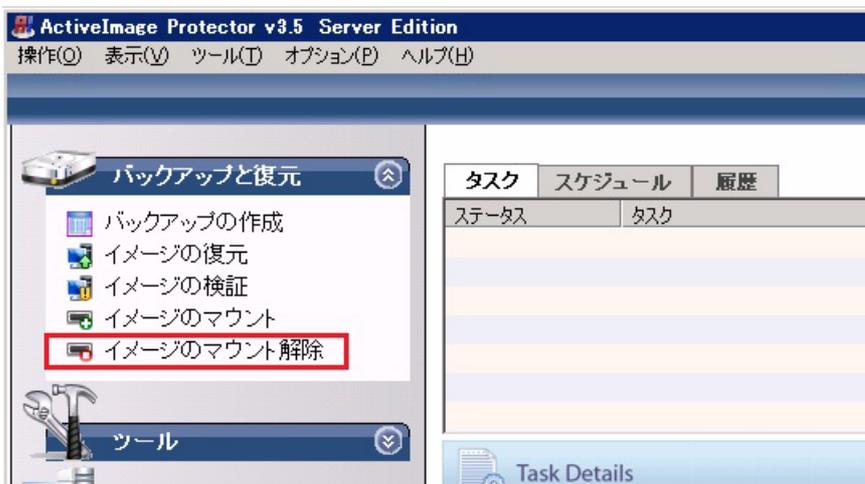


7. エクスプローラーに、Fドライブが新規に作成されていることを確認します。

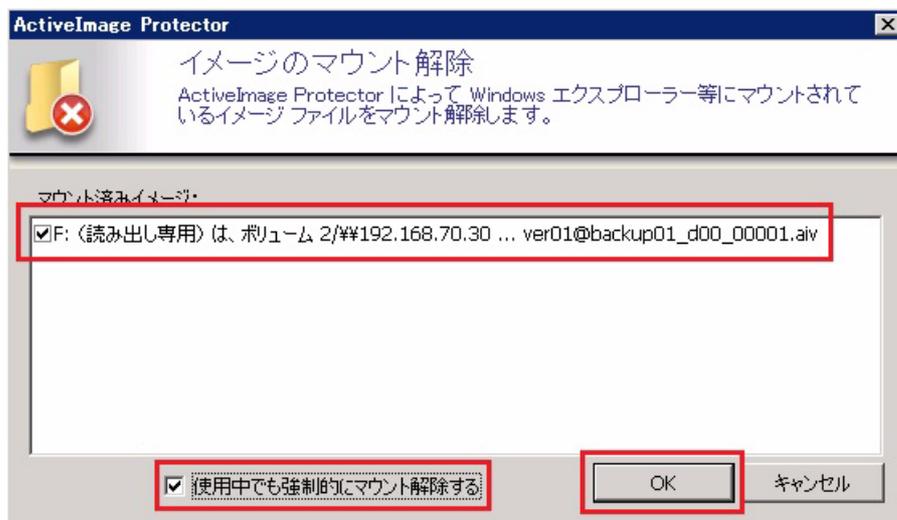
復元したいファイル、フォルダーに対して、Windows の操作の [コピー] と [貼り付け] を使用して復元してください。



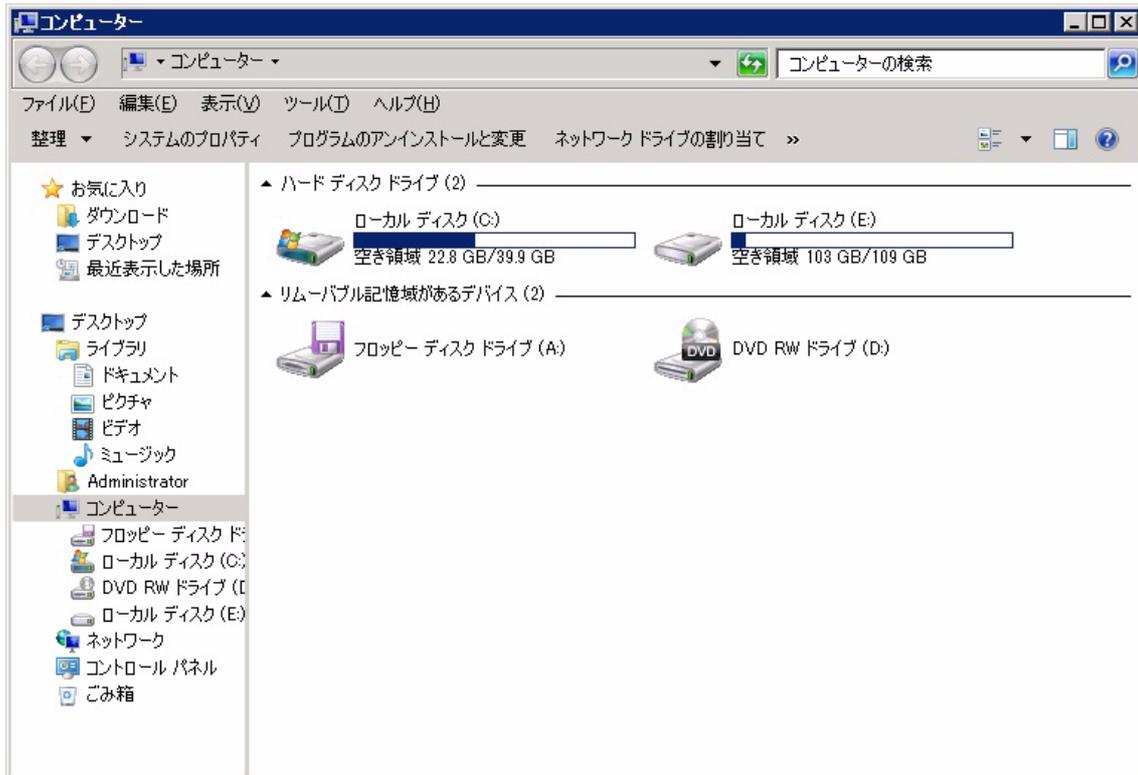
8. 復元が完了したら、マウントを解除します。
エクスプローラーを閉じてから、[イメージのマウント解除] をクリックします。



9. [マウント済みイメージ:] に表示されているドライブのチェックボックスをオンにし、[使用中でも強制的にマウント解除する] のチェックボックスもオンにしてから、[OK] をクリックします。
ここでは例として、Fドライブにマウントされているイメージを選択しています。



10.エクスプローラーから、イメージをマウントしたドライブが消えていることを確認します。

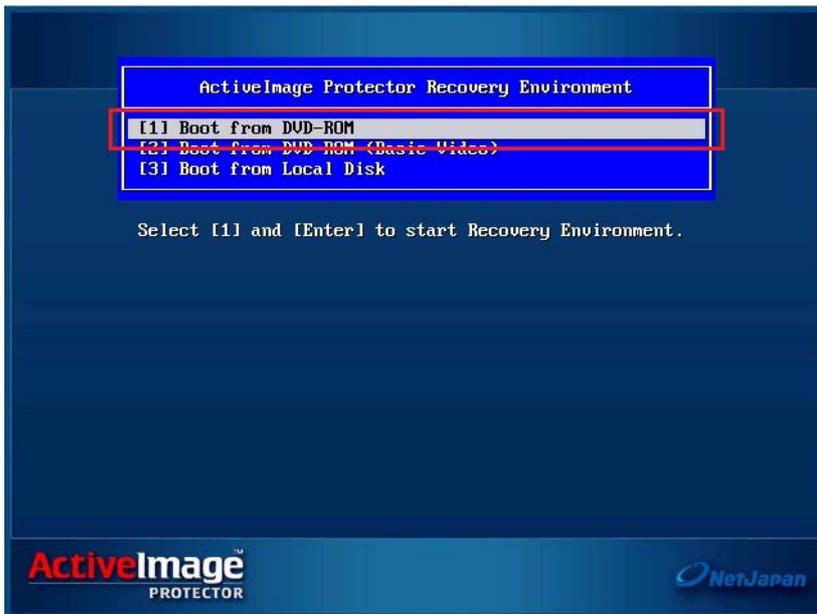


システムリカバリーの実行

ActiveImage Protector の製品メディアを使用して、システムリカバリーを行います。

注意： システムのリカバリーを行うと、ローカルに存在するデータがすべて削除されますので、十分に注意してから実行してください。

1. ブートメディアをセットして、マシンをメディアからブートします。
2. メニューが表示されたらキーボードの「↑」「↓」キーで[1]のメニューを選択してから、[Enter]キーを押します。



リカバリー環境の起動が完了するまで、しばらく待ちます。

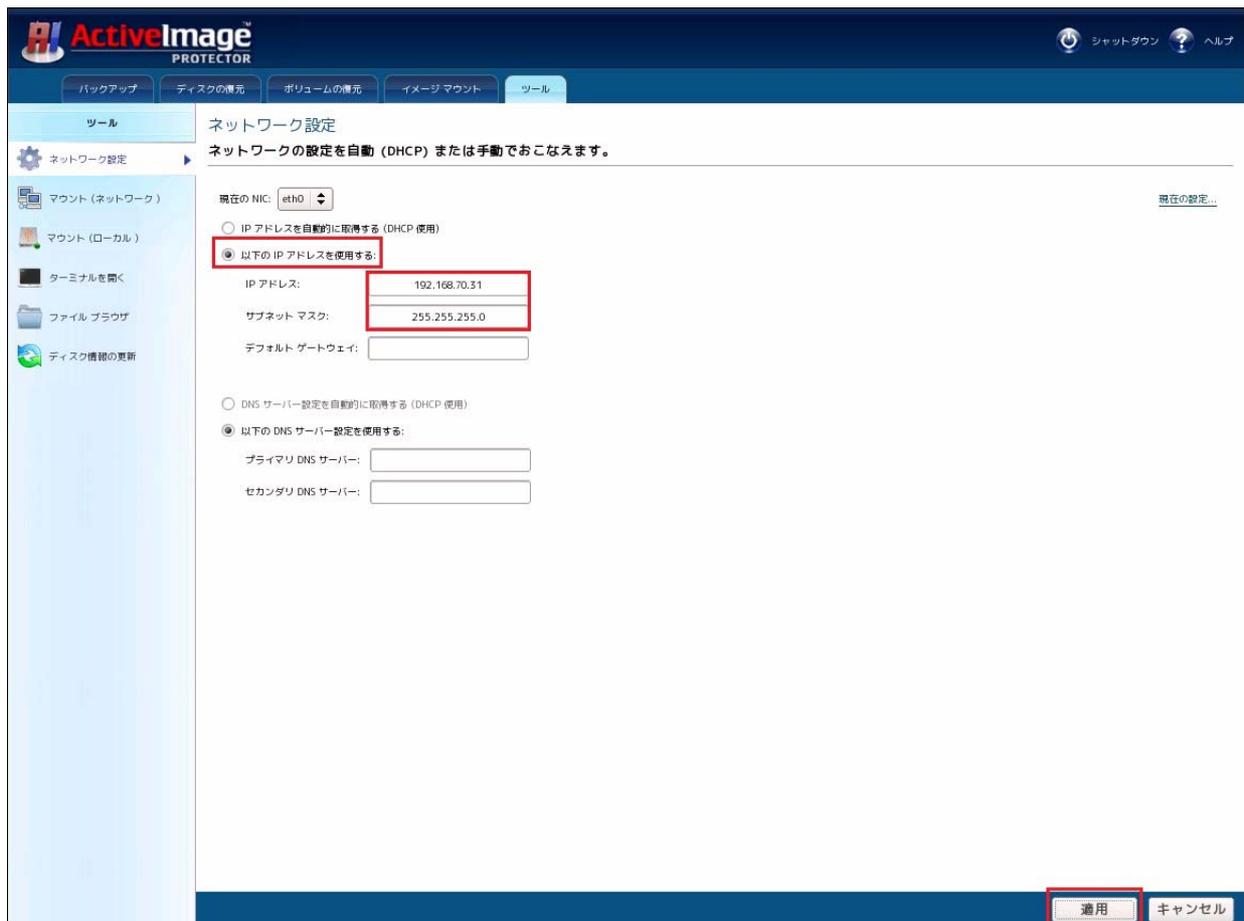
3. 言語選択が表示されますので [日本語] をクリックしてください。



4. ActiveImage Protector のコンソールが起動します。IP アドレスの設定を行うため、[ツール] をクリックします。



5. 「以下の IP アドレスを使用する」 をクリックしてから [IP アドレス] と [サブネットマスク] を入力します。ここでは例として、IP アドレスに「192.168.70.31」、サブネットマスクに「255.255.255.0」を入力してから [適用] をクリックします。



6. ネットワーク設定の確認が求められますので、[OK] をクリックします。



7. [マウント (ネットワーク)] をクリックします。



8. イメージファイルの保存先をマウントします。
ここでは例として、下記の設定で保存先をマウントします。
- ネットワーク上のコンピューター：BACKUP-SV
 - IPアドレス：192.168.70.30
 - 共有フォルダー：disk
 - ユーザー名：aip
 - パスワード：(設定されているパスワード)
- [BACKUP-SV (192.168.70.30)] をダブルクリックします。



9. [ユーザー名の入力:] に、保存先にアクセス可能なユーザー名を入力してから [OK] をクリックします。
ここでは例として、[aip] と入力します。



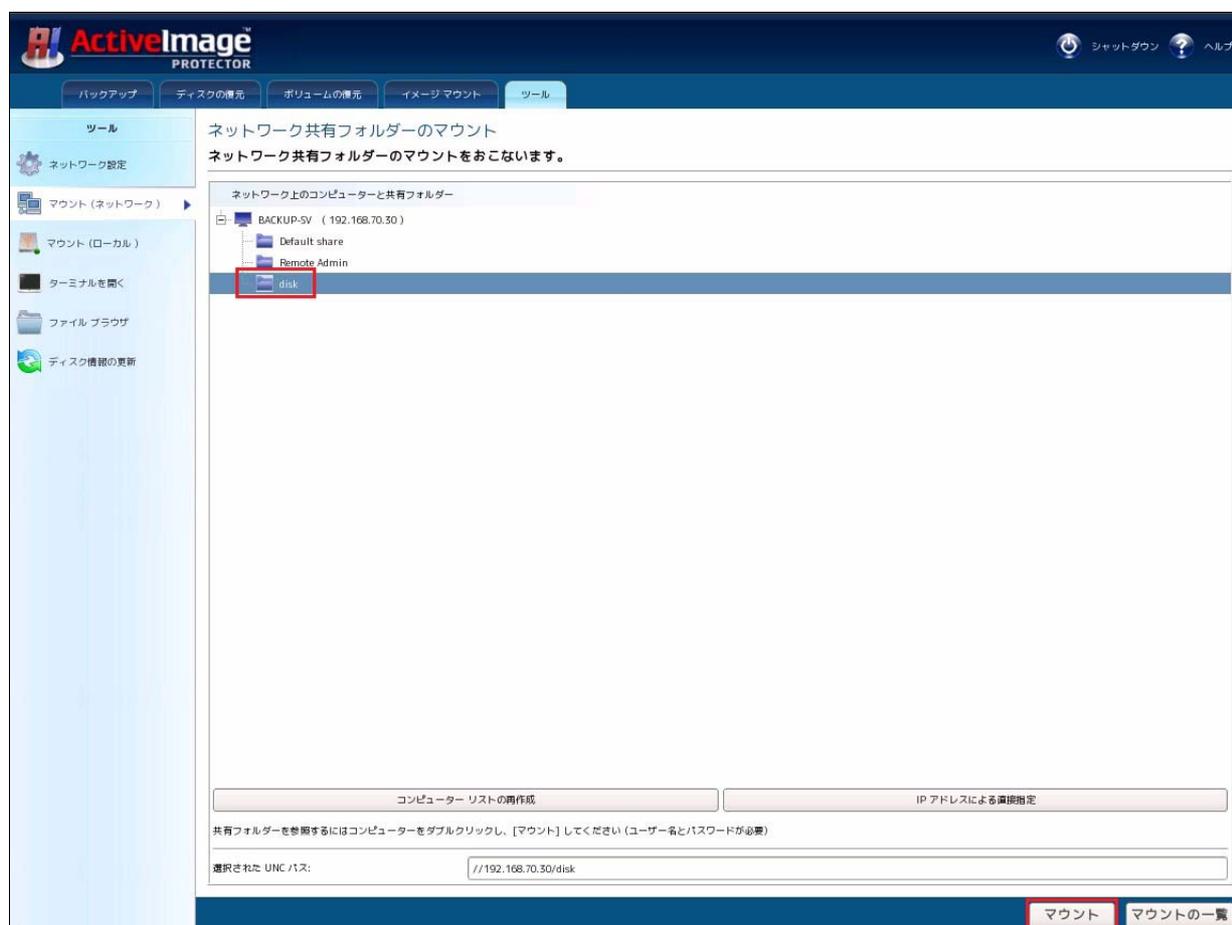
10. 続けて [パスワードの入力:] に、ユーザー名に対するパスワードを入力してから [OK] をクリックします。



11. コンピューターの左側にある [+] マークをクリックして、共有フォルダーを展開します。



12. 共有フォルダー（ここでは [disk]）を選択してから [マウント] をクリックします。



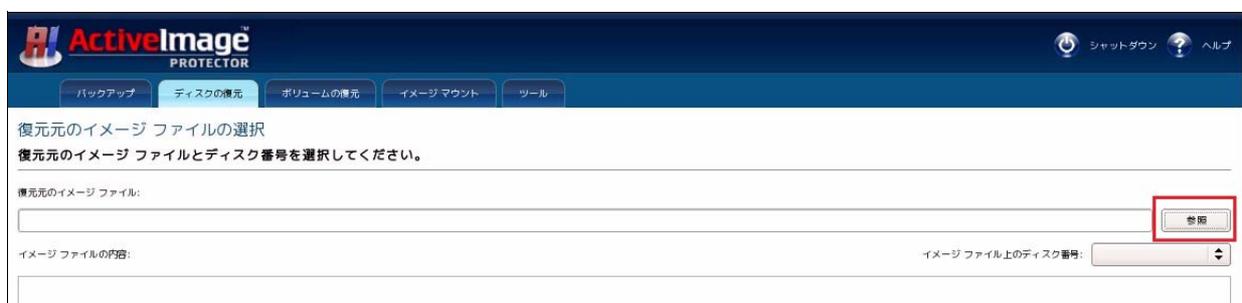
13.「マウントされたネットワーク共有フォルダー」の一覧に、マウントポイントが作成されていることを確認します。



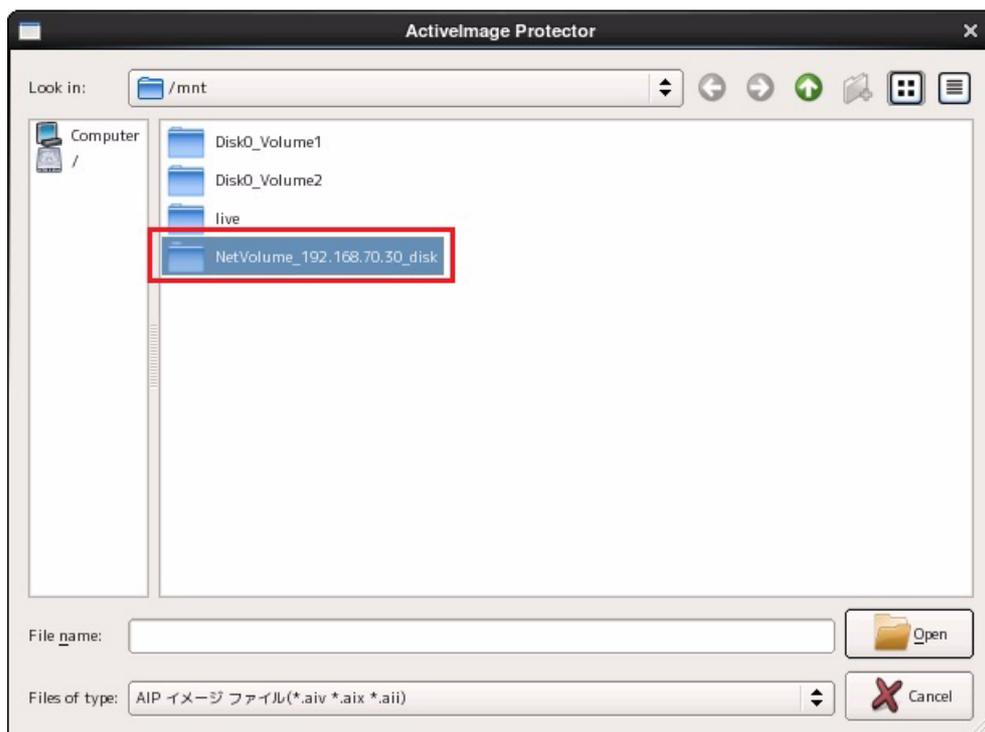
14.「ディスクの復元」をクリックします。



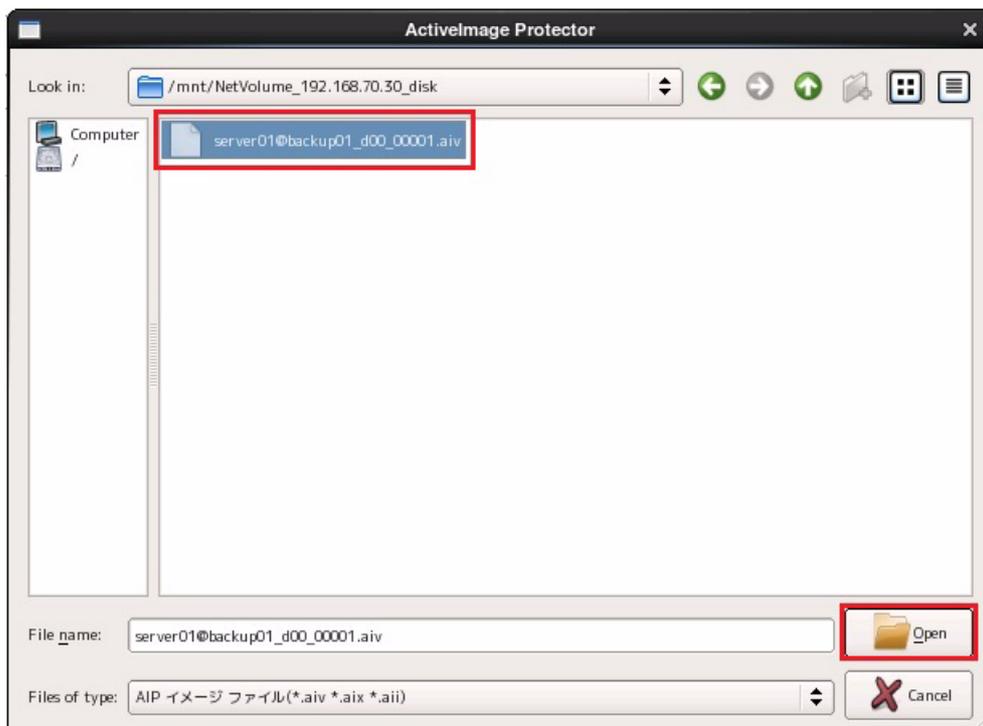
15.「参照」をクリックします。



16.マウントしたフォルダー（ここでは「NetVolume_192.168.70.30_disk」）をダブルクリックして開きます。



17.イメージファイルを選択してから [Open] をクリックします。



18.「イメージファイル上のディスク番号」と「イメージファイルの内容」を確認してから、「次へ」をクリックします。

ActiveImage PROTECTOR

バックアップ ディスクの復元 ボリュームの復元 イメージマウント ツール

シャットダウン ヘルプ

復元元のイメージファイルの選択

復元元のイメージファイルとディスク番号を選択してください。

復元元のイメージファイル: /mnt/NetVolume_192.168.70.30_disk/ser01@backup01_d00_00001.aiv 参照

イメージファイルのディスク番号: ディスク0 (512.0 GB)

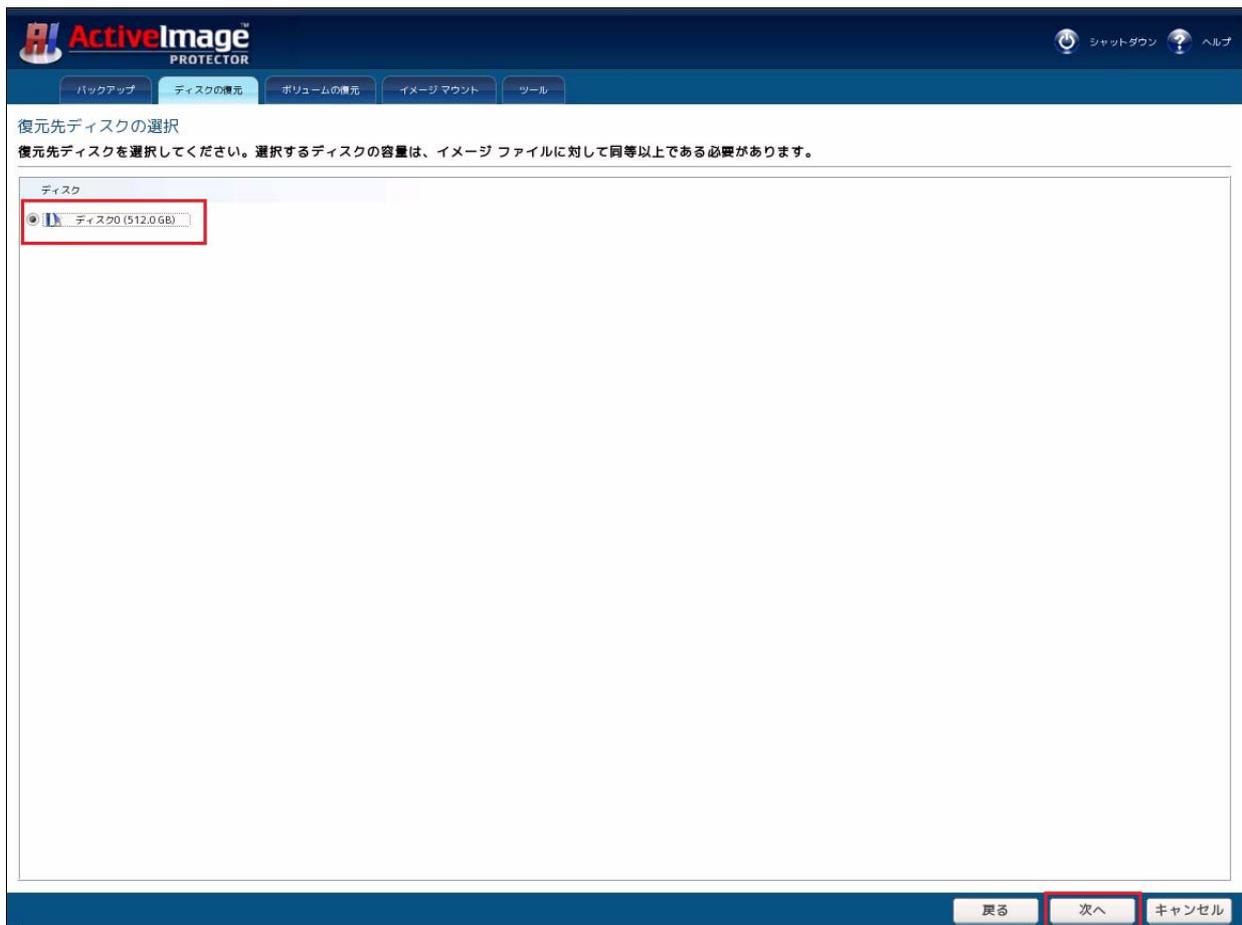
イメージファイルの内容:

D: (NTFS(IF))	100.0 MB
E: (NTFS(IF))	59.9 GB

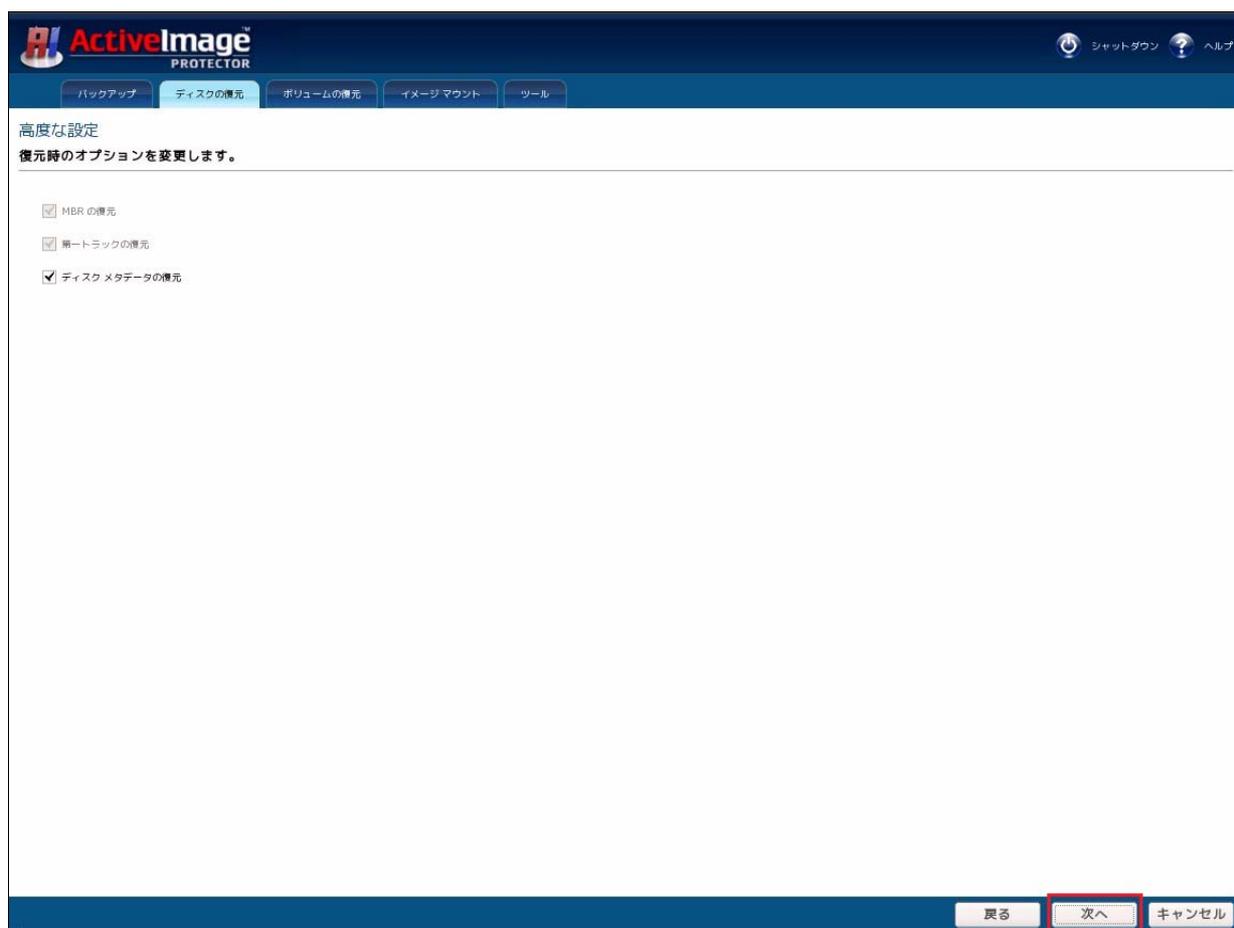
ディスクの復元はイメージファイル上のすべてのボリュームを復元します。

次へ キャンセル

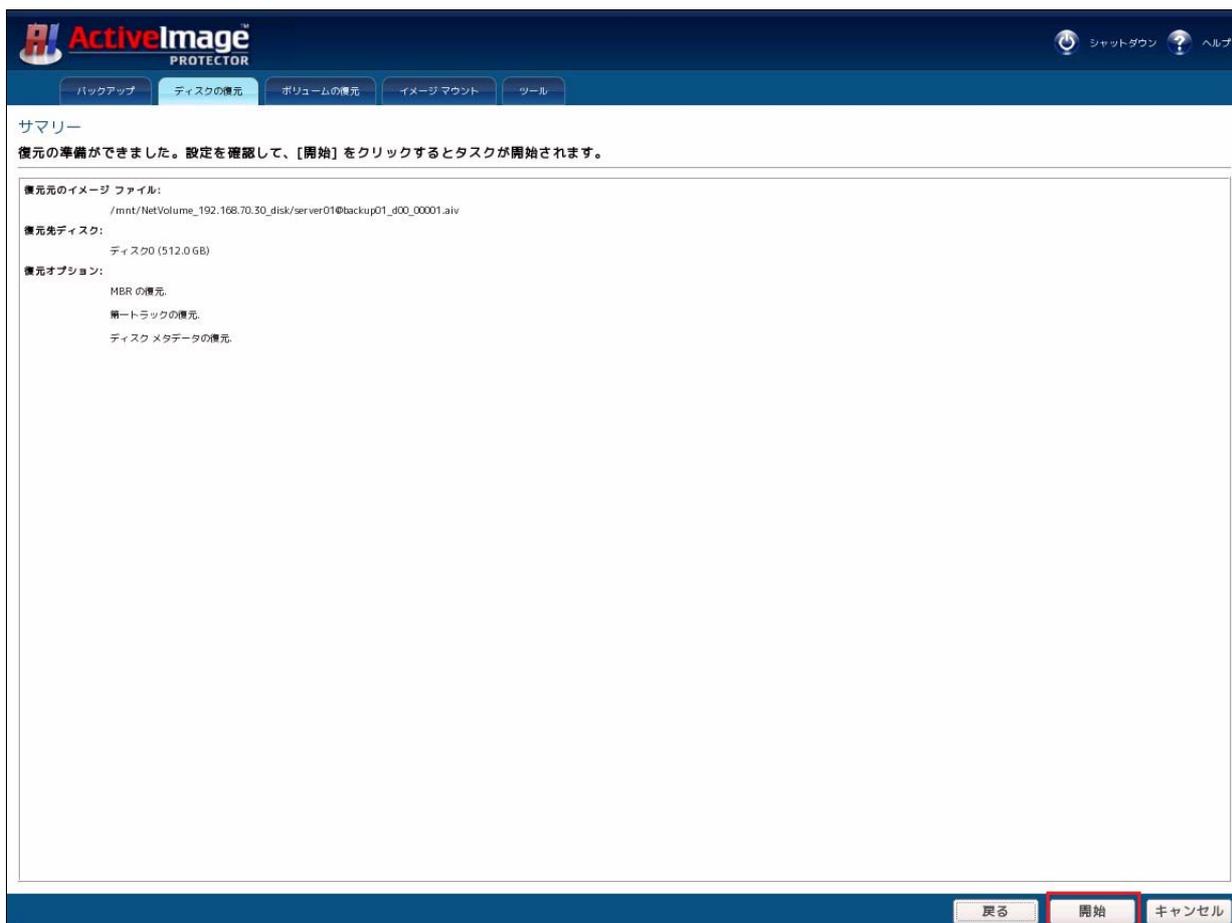
19.復元先の [ディスク] を選択してから [次へ] をクリックします。



20.復元時のオプションは変更せずに [次へ] をクリックします。



21. サマリが表示されますので、問題がないことを確認してから [開始] をクリックします。



22. 確認のメッセージが表示されます。[OK] をクリックすると、復元が開始されます。



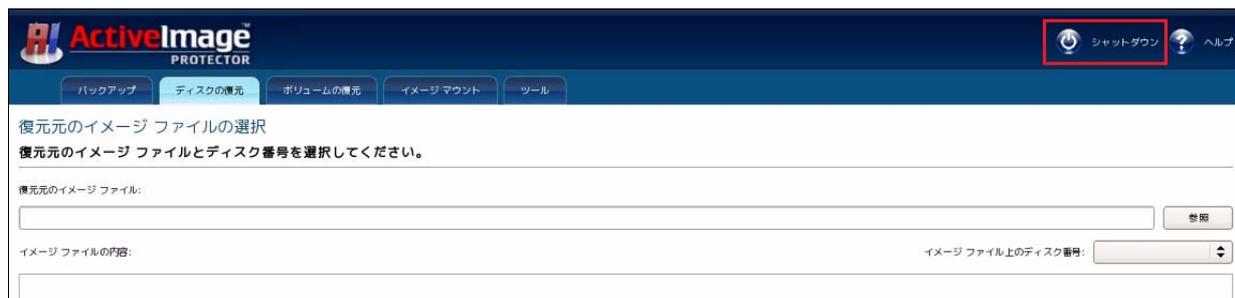
23. 復元の実行中は進捗が表示されます。



24.復元が完了するとメッセージが表示されますので、[OK] をクリックします。



25.復元環境を終了するため、画面右上の [Shutdown] ボタンをクリックします。



26.シャットダウンの確認が表示されますので、[OK] をクリックします。



27.マシンのシャットダウンが開始されます。

```
Stopping cups: [ OK ]
Stopping automount: [ OK ]
Stopping acpi daemon: [ OK ]
Stopping HAL daemon: [ OK ]
Stopping block device availability: Deactivating block devices:
[SKIP]: unmount of live-rw (dm-0) mounted on /
DM: deactivating dm device live-osimg-min (dm-1)
Stopping FCoE initiator service: [ OK ]
Stopping lldpad: [ OK ]
Stopping NetworkManager daemon: [ OK ]
Stopping system message bus: [ OK ]
Stopping rpcbind: [ OK ]
Shutting down system logger: [ OK ]
Unmounting CIFS filesystems: [ OK ]
Shutting down interface eth0:
```

マシンのシャットダウンが完了したら、再度マシンの電源を ON にして Windows が正常起動するかを確認します。
以上で復元の作業は完了です。

6. APPENDIX

ActiveImage Protector 参考情報

- ActiveImage Protector 専用サイト
製品情報の他、各種資料やサポート情報、アップデートなど、総合的にご案内しています。
<http://activeimage.jp/>
- ActiveImage Protector FAQ
サポート情報のデータベースです。
<http://www.netjapan.co.jp/e/faq/index.php?action=show&product=AIP35SVDT>